

平成 26 年度

大阪市「全国学力・学習状況調査」

の結果について

平成 26 年 10 月

大阪市教育局委員会

はじめに

「全国学力・学習状況調査」は、国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的に、平成 19 年度より実施しています。

大阪市教育委員会では、保護者や市民の皆様説明責任を果たすとともに、教育により関心をお持ちいただくため、本調査の内容が、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、学校が総体となって取り組むべき課題であると捉え、平成 20 年度より調査結果と学力向上戦略を併せて公表してまいりました。

また、平成 25 年度からは、大阪市立学校活性化条例や大阪市教育振興基本計画の趣旨に基づき、大阪市教育委員会の責任において、各校長が、「全国学力・学習状況調査」の自校における平均正答率を含む調査結果及び調査結果の分析から明らかになった現状や、自校の取組の成果、今後取り組むべき課題等を公表しています。

児童生徒の学力向上には、学校はもとより、保護者、地域（市民）の方々に本市の子どもたちの現状を理解していただき、学校・家庭・地域が連携して取り組むことが重要です。今年度は、調査の結果を基に、小中学校の教科別（国語、算数・数学）や質問紙調査ごとに、「児童生徒のがんばり」と「努力が必要な点」「学校や家庭での取組のポイント」「効果があった取組例」等としてまとめて公表いたします。

また、大阪市教育振興基本計画に基づいた、「学力向上に向けた大阪市の取組」の概要も示しております。

大阪市教育委員会といたしましては、これらの分析結果をもとに、本市の児童生徒の学力向上に向け、より一層取組を進めてまいります。

（参考）

実施年度	全 国	大 阪 市	備 考
平成 19 年度～平成 21 年度	しつぱいちようさ 悉皆調査 1	悉皆調査（全小中学校が参加）	
平成 22 年度	抽出調査 2	抽出調査＋希望利用方式 3（全小中学校が参加）	
平成 23 年度	実施なし	希望利用方式（全小中学校が参加）	
平成 24 年度	抽出調査	抽出調査＋希望利用方式（全小中学校が参加）	・理科に関する調査
平成 25 年度	悉皆調査	悉皆調査（全小中学校が参加）	・経年変化分析調査 ・保護者に対する調査 ・教育委員会に対する調査
平成 26 年度	悉皆調査	悉皆調査（全小中学校が参加）	

1：全国の小中学校をもちろん調査する方法

2：全小中学校のうち、一定の割合の学校を対象として調査する方法

3：学校長の希望により、調査を利用することができる方法

目 次

調査の概要	1
・ 教科に関する調査結果の概要	・ 平均正答率 全国との経年比較
・ 平均無解答率 全国との経年比較	・ 正答数分布
・ 大阪市の平均正答率・平均正答数・平均無解答率	
教科に関する調査結果	4
・ 小学校国語	・ 小学校算数
・ 中学校国語	・ 中学校数学
質問紙調査の結果	20
・ 学びの充実に向けて	・ 基本的な生活習慣
・ 自尊感情・規範意識	・ 学校・家庭・地域の連携
	・ 家庭学習
	・ 学校組織の改善
学力向上に向けた大阪市の取組	34
・ 言語力や論理的思考能力の育成	・ 習熟度別少人数授業の実施
・ ICTを活用した教育の推進	・ 学習教材データ配信
・ 放課後ステップアップ事業	・ 学校元気アップ地域本部事業
・ 小中一貫した教育	・ 幼稚園・保育所・小学校の連携
・ 学校図書館活性化事業	・ 英語イノベーション事業
・ 理科教育の充実	・ 学び続ける教員サポート事業
・ 学校キャラバン隊	

大阪市教育局事務局

学力向上グループ

06 - 6208 - 9039

教 育 セ ン タ ー

06 - 6572 - 0667

初 等 教 育 担 当

06 - 6208 - 9176

中 学 校 教 育 担 当

06 - 6208 - 9199

調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、大阪市教育振興基本計画に基づく教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年の全児童

中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年の全生徒

3 調査内容

教科に関する調査（国語、算数・数学）

・主として「知識」に関する問題（A問題）

・主として「活用」に関する問題（B問題）

質問紙調査

・児童生徒に対する調査

・学校に対する調査

4 調査方式 悉皆調査

5 調査日時 平成26年4月22日(火)

6 調査を実施した学校・児童生徒数

・小学校（特別支援学校含）300校、18,666人

・中学校（特別支援学校含）133校、17,623人

教科に関する調査結果の概要

平均正答率は、A・B問題において全国との差は依然としてあるものの、平成25年度と比べ、小中学校ともに、国語において、縮小傾向にある。

平均無解答率は、小学校でほぼ全国平均に近づいた状況である。また、中学校においても、概ね改善傾向にある。

小学校については、平成25年度と比べ、国語においては改善傾向にある。算数においては、A・B問題ともに、全国との差が若干広がっている。

中学校については、平成25年度と比べ、国語においては改善傾向にある。数学においては、全国との差は依然としてあるものの、B問題に改善傾向がみられる。

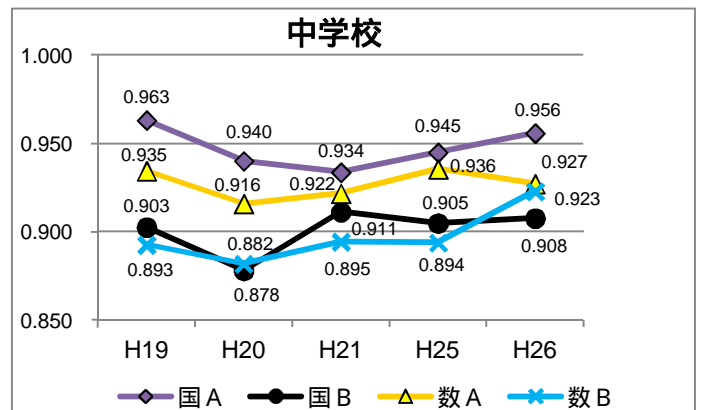
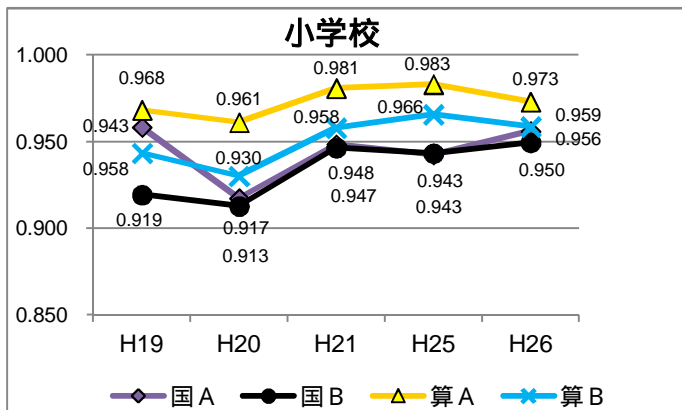
平均正答率 全国との経年比較

平成 23 年度は、東日本大震災の影響により、全国調査は見送られた。
 悉皆調査の平成 19,20,21,25,26 年度を取り上げています。

		H19			H20			H21			H25			H26		
		大阪市	全国	差	大阪市	全国	差	大阪市	全国	差	大阪市	全国	差	大阪市	全国	差
小国	A問題	78.3	81.7	-3.4	60.0	65.4	-5.4	66.3	69.9	-3.6	59.1	62.7	-3.6	69.7	72.9	-3.2
	B問題	57.0	62.0	-5.0	46.1	50.5	-4.4	47.8	50.5	-2.7	46.6	49.4	-2.8	52.7	55.5	-2.8
小算	A問題	79.5	82.1	-2.6	69.4	72.2	-2.8	77.2	78.7	-1.5	75.9	77.2	-1.3	76.0	78.1	-2.1
	B問題	60.0	63.6	-3.6	48.0	51.6	-3.6	52.5	54.8	-2.3	56.4	58.4	-2.0	55.8	58.2	-2.4
中国	A問題	78.6	81.6	-3.0	69.2	73.6	-4.4	71.9	77.0	-5.1	72.2	76.4	-4.2	75.9	79.4	-3.5
	B問題	65.0	72.0	-7.0	53.4	60.8	-7.4	67.9	74.5	-6.6	61.0	67.4	-6.4	46.3	51.0	-4.7
中数	A問題	67.2	71.9	-4.7	57.8	63.1	-5.3	57.8	62.7	-4.9	59.6	63.7	-4.1	62.5	67.4	-4.9
	B問題	54.1	60.6	-6.5	43.4	49.2	-5.8	50.9	56.9	-6.0	37.1	41.5	-4.4	55.2	59.8	-4.6

平均正答率 対全国比の経年比較

グラフは、全国平均正答率を 1 としたときの大阪市の割合を表したものです。

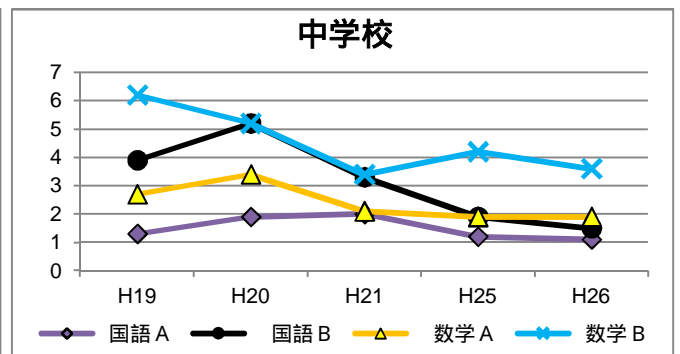
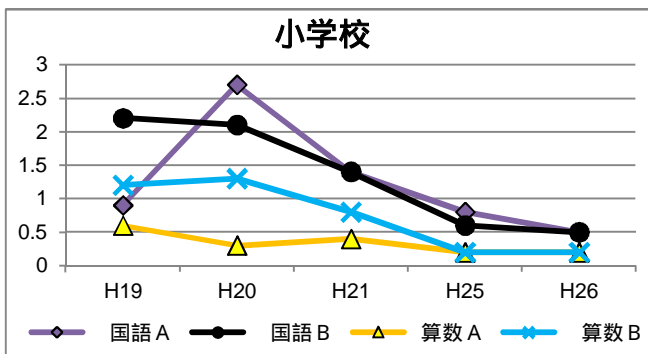


平均無解答率 全国との経年比較

		H19			H20			H21			H25			H26		
		大阪市	全国	差	大阪市	全国	差	大阪市	全国	差	大阪市	全国	差	大阪市	全国	差
小国	A問題	2.9	2.0	0.9	13.6	10.9	2.7	11.3	9.9	1.4	11.5	10.7	0.8	2.8	2.3	0.5
	B問題	10.9	8.7	2.2	14.4	12.3	2.1	13.5	12.1	1.4	14.2	13.6	0.6	9.7	9.2	0.5
小算	A問題	1.7	1.1	0.6	3.3	3.0	0.3	2.5	2.1	0.4	1.9	1.7	0.2	1.1	0.9	0.2
	B問題	7.1	5.9	1.2	7.3	6.0	1.3	7.0	6.2	0.8	6.5	6.3	0.2	4.5	4.3	0.2
中国	A問題	4.8	3.5	1.3	5.7	3.8	1.9	5.3	3.3	2.0	3.6	2.4	1.2	4.2	3.1	1.1
	B問題	9.1	5.2	3.9	13.9	8.7	5.2	8.9	5.6	3.3	4.7	2.8	1.9	5.0	3.5	1.5
中数	A問題	6.8	4.1	2.7	10.0	6.6	3.4	7.2	5.1	2.1	7.2	5.3	1.9	6.2	4.3	1.9
	B問題	20.6	14.4	6.2	18.6	13.4	5.2	13.1	9.7	3.4	20.9	16.7	4.2	14.5	10.9	3.6

平均無解答率 全国との差の経年比較

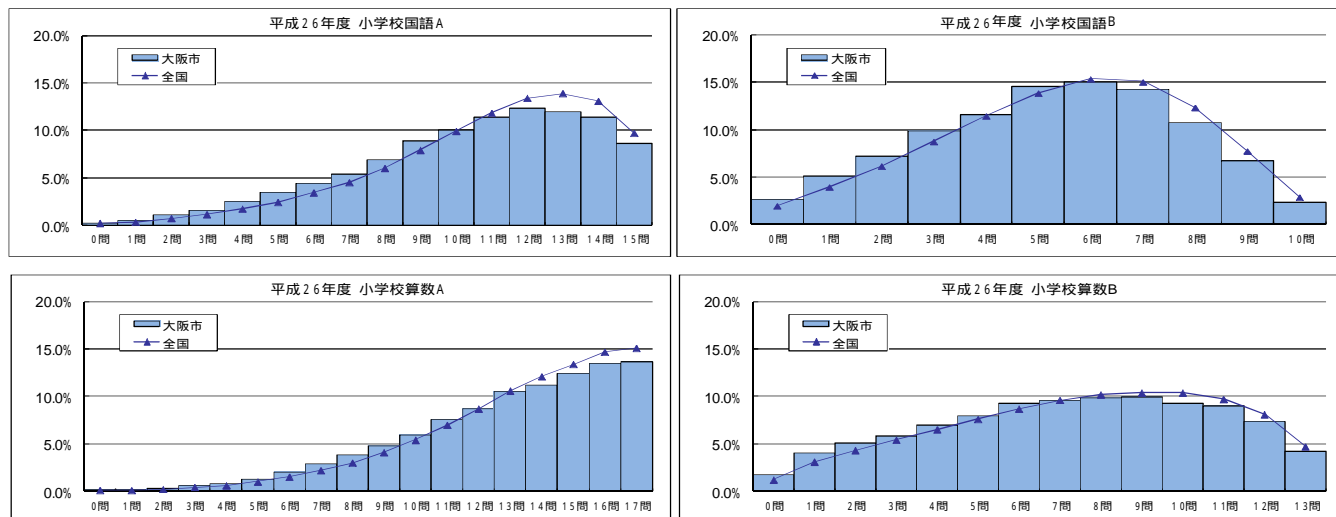
グラフは、大阪市と全国平均無解答率の差を表したものです。



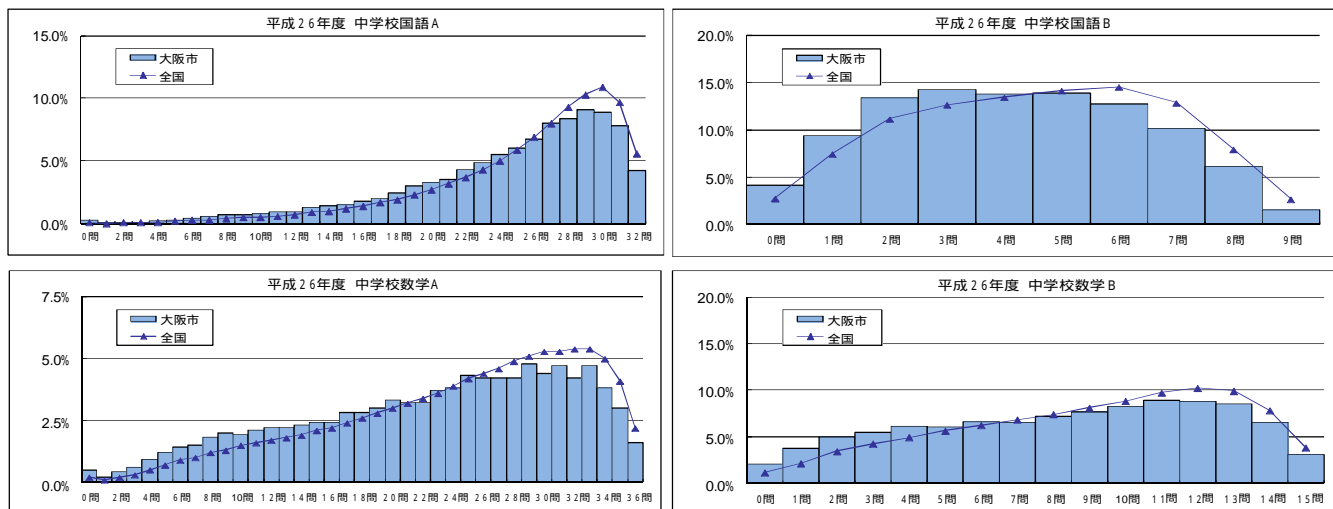
正答数分布

下のグラフは、大阪市を棒グラフ、全国を折れ線グラフで示している。大阪市のグラフは、全国とほぼ同じような形状であるが、いずれの教科においても、棒グラフの方が左に寄っていることから、大阪市は全国に比べて正答数の少ない児童生徒の割合が高いことが分かる。

小学校



中学校



大阪市の平均正答率・平均正答数・平均無解答率

小学校

	国語A	国語B	算数A	算数B
平均正答率	69.7	52.7	76.0	55.8
平均正答数	10.5 問/15 問	5.3 問/10 問	12.9 問/17 問	7.3 問/13 問
平均無解答率	2.8	9.7	1.1	4.5

中学校

	国語A	国語B	数学A	数学B
平均正答率	75.9	46.3	62.5	55.2
平均正答数	24.3 問/32 問	4.2 問/9 問	22.5 問/36 問	8.3 問/15 問
平均無解答率	4.2	5.0	6.2	14.5

小学校国語

A問題 平均正答率：69.7%（全国：72.9%） 平均無解答率：2.8%（全国：2.3%）

B問題 平均正答率：52.7%（全国：55.5%） 平均無解答率：9.7%（全国：9.2%）

児

児童質問紙

学

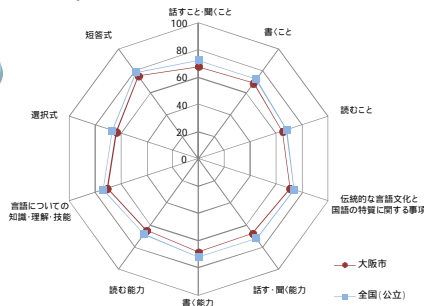
学校質問紙

結果チャート

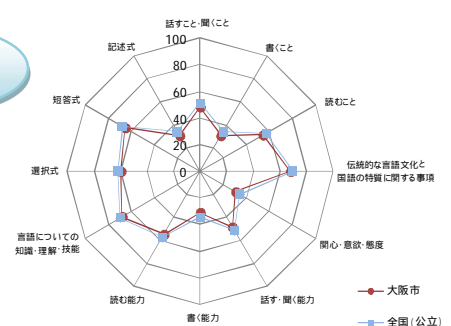
領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

A問題では、「読むこと」「読む能力」「選択式」の項目で低い値を示しています。

国語 A



国語 B



平均正答率及び平均無解答率については、P.2の表を参照のこと。

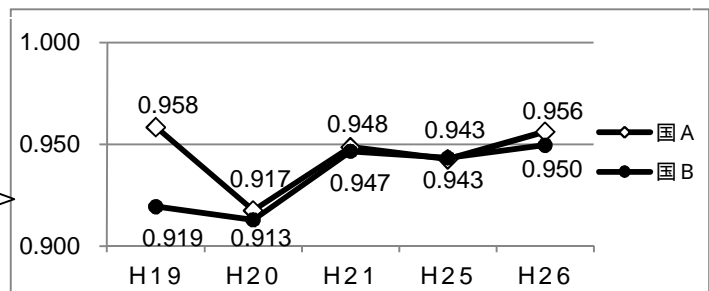
B問題では、「書くこと」「関心・意欲・態度」「書く能力」「記述式」の項目で低い値を示しています。

対全国比経年比較

対全国比については、悉皆調査の平成19,20,21,25,26年度を取り上げています。

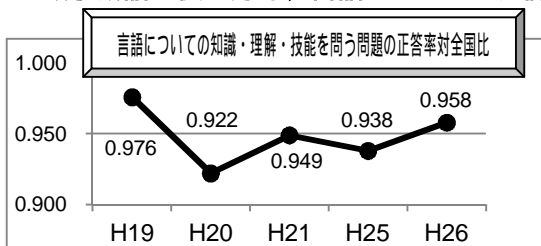
グラフは、全国の平均正答率を1としたときの国語A・国語Bの大阪市の割合を表したものです。

平成25年度と比べ、国語A・国語Bともにゆるやかな改善傾向にあります。



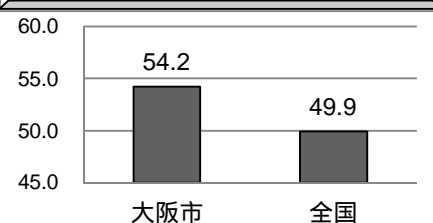
基礎的・基本的な知識の定着にがんばりがみえています

故事成語の使い方等、言語についての知識・理解・技能を問う問題に改善がみられています。



故事成語「百聞は一見にしかず」の使い方として適切なものを選ぶ問題（A2二）

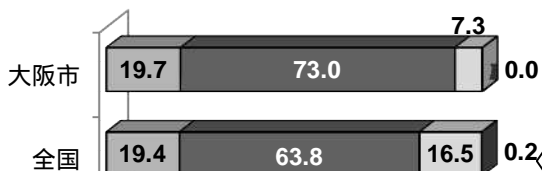
故事成語の使い方に関する問題の正答率



授業では「書く」「読む」習慣をつける指導が行われています。

学

様々な文章を読む授業を行った
(肯定的回答：大阪市：92.7% 全国：83.2%)

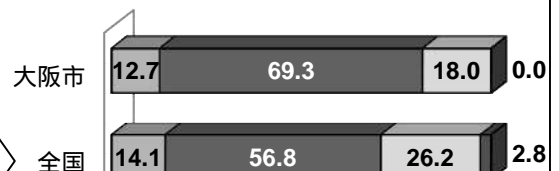


☒ よく行った
☒ どちらかといえば、行った
☐ あまり行っていない
☐ 全く行っていない

肯定的な回答が全国を上回っています

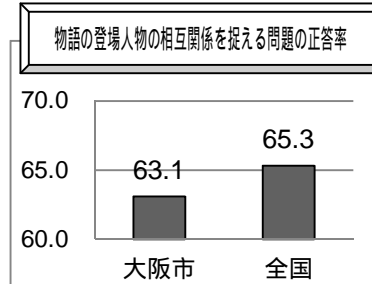
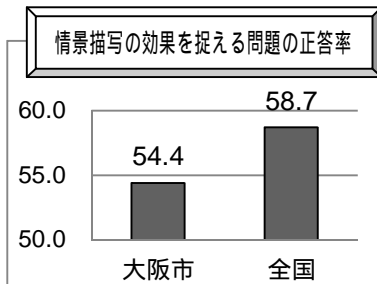
学

補充的な学習の指導を行った
(肯定的回答：大阪市：82.0% 全国：70.9%)



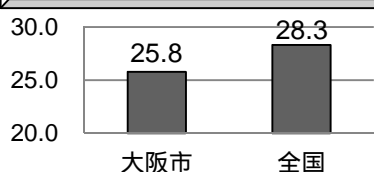
内容を捉えて文章を読むことに努力が必要です

2人の会話の様子から、「さびしい」気持ちを表す描写について、その効果を考える問題（A[3]）
物語「かくれんぼう」に登場する3人について、それぞれの人物像や相互関係を捉える問題（A[5]）



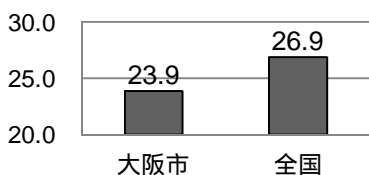
理由を明らかにして自分の考えを書くことや話すことに努力が必要です

立場や根拠を明確にして質問や意見を述べる問題の正答率



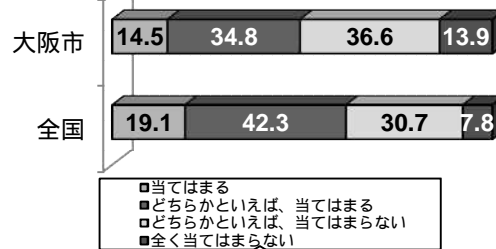
卒業文集に関する話し合いで、相手の発言を引用し、立場や根拠を明確にして質問や意見を述べる問題（B[1]三）

内容を関連づけてまとめて書く問題の正答率



付箋に書かれた2つの文章を読み、分かったことや疑問に思ったことを整理し、まとめて書く問題（B[2]二）

児 目的に応じて資料を読み、自分の考えを書いたり話したりしている
(肯定的回答：大阪市 49.3% 全国 61.4%)



肯定的な回答が全国を下回っています

学校で

「学習教材データ配信」等を活用し、漢字や語句の意味等、基礎的・基本的な事項の指導を継続して行います。

言語活動の充実を図り、考えたことについて、根拠を明確にして書く力や話す力を育みます。

習熟度別少人数授業を通して、一人一人の習熟の程度に合った指導を進めます。

読書タイムや朝の斉読書の時間を設ける等、読書習慣の形成を図ります。

共通点や相違点に着目して複数の資料を読み、自分の考えを書く力を育みます。

家庭で

読書は、言語力の育成のみならず、豊かな感性を育みます。読み聞かせや親子読書を楽しみましょう。日々の発見や感動した出来事をノートに書いてみましょう。字数を決めることで（ノート1ページ・100字程度等）自分の考えや意見をまとめる練習になります。

子どもたちにとって、日常生活で話したり聞いたりすることは大切です。家族で会話をする時間をとりましょう。

効果があった取組例

45分の授業の中で、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」について、工夫した活動を取り入れています。（例）付箋（ふせん）を使って自分の考えをメモとして書く、司会を決めて話し合う、音読の形態を工夫する、等

全校朝会での校長先生のお話について、児童の実態に合わせたテーマ（どんな内容だったか、どんなことを感じたか、自分ならどうするか、等）を決め、100字でまとめて書く活動を取り入れています。

書架を校内の共有スペースに設置することや、教科書の教材文に関わる造形物を掲示することで、児童の読書への関心が高まるような環境をつくっています。

大阪市の取組

「言語活動の充実」(P.35)「習熟度別少人数授業」(P.35)
「学習教材データ配信」(P.37)「学校図書館活性化事業」(P.40)

調査問題の中で大阪市の子どもたちの平均正答率が特に低い問題
全国と比べて平均正答率の差が大きい問題
大阪市として継続して課題がみられる問題

【国語 A】(主として「知識」に関する問題)

課題 情景描写の効果捉えること

- 3 設問の概要 情景描写を正しく理解し、適切なものを選択する。〔正答率 大阪市 54.4% 全国 58.7%〕

学習指導要領における領域 [第3学年及び第4学年] B 書くこと [第5学年及び第6学年] 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

指導のポイント 各学年で読むことと関連を図り、物語を創作する

物語を創作する上で、物語の表現の特徴とその効果について捉えることは重要である。そのためには、物語などの文学的な文章を読むことの授業において、描写の工夫（行動や表情、会話（内言）、風景等）の効果を理解することができるように指導することが大切である。その際、登場人物の心情等について、直接的に描写されているものだけでなく、暗示的に表現されているものも捉えることができるように指導することが重要である。

3 次は、南田さんが想像したことをもとにして書いてある。「物語の一部」です。南田さんは、橋本さんから助言をもらっています。あとの「二人の会話の様子」の□の中に入る内容として最もふさわしいものを、1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【物語の一部】

良太は、さびしい気持ちでいっぱいになりました。
――中略――

【二人の会話の様子】

橋本 それならば、その気持ちを□で表したらどうだろう。

南田 それはいいね（しばらく考える。）
では、「いつの間にか灰色の雲が広がり、公園はだんだんと暗くなってきました。」としたらどうか。

1 良太の顔の表情
2 良太の心の中の声
3 良太の周りの風景
4 良太の行動

課題 物語の登場人物の相互関係を捉えること

- 5 設問の概要 物語の一部に入る適切な人物の名前を書く。 [正答率 大阪市 63.1% 全国 65.3%]

学習指導要領における領域 [第5学年及び第6学年] C 読むこと

指導のポイント 関係図を活用して、登場人物の人物像や相互関係を捉える

【人物像を捉える】

登場人物を順番に書き出す。

中心となる登場人物（主人公）を確かめる。

叙述の中から、どのような人物かが分かる言葉を書き出し、観点ごとに整理する。

登場人物の行動や会話が書かれている叙述を基に、人物の性格を話し合う。

【相互関係を説明する】

物語を読み、登場する人物像を捉える。

登場人物同士の関わり合いを叙述を基に捉え、関係図に表す。

登場人物の相互関係を人物名のカードや矢印などを操作して関係図を基に説明し合う。

次は「かくれんぼう」という題名の物語の一部です。

の中には、「よし子・ジヨール」「オデット」という人物の名前が入り込んでゐる。これはまづ名前を書きましよう。ただし、同じ名前は一回しか入りません。

圖解のほかに次のとおり

登場人物は、よし子、フランス人のジヨールとその妹のオデットです。三人はかくれんぼをして遊んでゐます。おにのジヨールは、よし子とオデットを同時に見つけたので、そこで二人はジヨールにどちらを先に見つけたのか争つてゐます。

中略

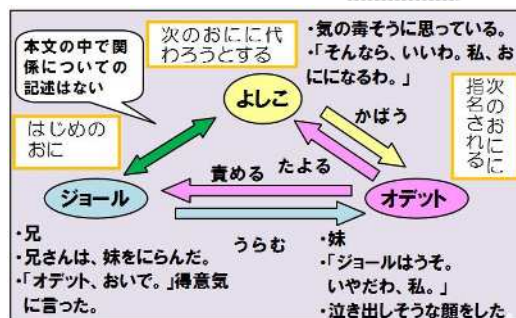
「そんなら、いいわ。私 おにになるわ。」と言つた。

「ア　するい。」

兄さんは妹をにらんだ。

「いいことよ。私がおにになるから、早くおにになさい。ね、早くおにになさい。私、じきにういてゐるから。」と後略。

(志賀重哉)「かくれんぼう」(下)より



授業の改善・充実を 図る際の参考事例

「平成 26 年度全国学力・学習状況調査を踏まえた授業アイデア例」P.7～14
国立教育政策研究所ウェブサイト https://www.nier.go.jp/jugyourei/h26/idea_01.html

【国語 B】(主として「活用」に関する問題)

課題

立場を明確にして、質問や意見を述べること

- 1三 設問の概要 大野さんの発言に対し、手書きの立場から質問か意見を書く。

〔正答率 大阪市 25.8% 全国 28.3%〕

学習指導要領における領域 [第5学年及び第6学年] A 話すこと・聞くこと B 書くこと

指導のポイント

相手の意見を引用するなどして、質問や意見を述べることができるようにする

討論においては、課題解決のために互いの立場や意見を踏まえた上で、質問や意見を述べる事が重要である。そのためには、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えとの共通点や相違点を明確にして聞くことが大切である。

具体的な指導としては、話し手の発言内容の中から、中心となる考え、理由や根拠などを、短い言葉で要約してメモなどに書き留めるような指導が有効である。

<討論会メモ>

相手(パソコン)の立場

「記念に残る卒業文集なので、読みやす(つ)くべきだ。」

私(手書き)の意見

「自分が書いた文字を残した方が、卒業の記念に残ると思う。」



課題

二つの詩を比べて読み、自分の考えを書くこと

- 3三 設問の概要 【詩1】と【詩2】を比べて読んで考えたことを書く。〔正答率 大阪市 43.2% 全国 48.1%〕

学習指導要領における領域 [第5学年及び第6学年] B 書くこと C 読むこと

指導のポイント

詩を読むときの観点を基にして、複数の詩の共通点や相違点を明らかにする

複数の詩を比べて読み、自分の考えを書くためには、表現の工夫や詩の捉え方を観点にしてそれぞれの詩の特徴を理解し、自分なりに解釈をすることができるように指導することが大切である。

そのためには、複数の詩の共通点や相違点を明らかにし、詩を読むときの観点を基にしながら、自分なりの解釈や考えを明確にして書くことが有効である。

【同じ作者の詩を比べて読み、考えたことを伝え合う学習活動】

ステップ1

詩を読むとき、観点を基に、詩の特徴を捉える

ステップ2

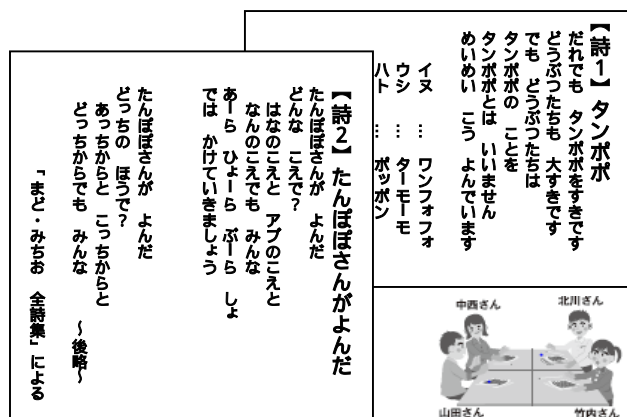
共通点や相違点を整理し、自分で考えたことを書く

ステップ3

自分が気に入った詩を複数取り上げ、作者の考え方について伝え合う

ステップ4

各自が選んだ詩を紹介し合う



小学校算数

A問題 平均正答率：76.0%（全国：78.1%） 平均無解答率：1.1%（全国：0.9%）

B問題 平均正答率：55.8%（全国：58.2%） 平均無解答率：4.5%（全国：4.3%）



児童質問紙



学校質問紙

結果チャート

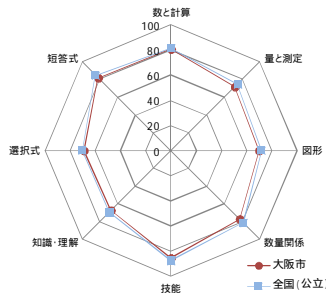
領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

A問題では、「数と計算」「技能」「短答式」の項目で高い値を示しています。

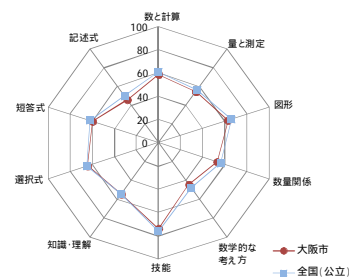
平均正答率及び平均無解答率については、P.2の表を参照のこと。

B問題では、「数学的な考え方」「記述式」の項目で低い値を示しています。

算数A



算数B

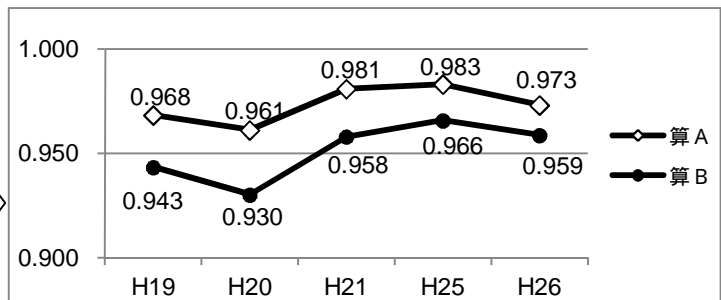


対全国比経年比較

対全国比については、悉皆調査の平成19,20,21,25,26年度を取り上げています。

グラフは、全国の平均正答率を1としたときの算数A・算数Bの大阪市の割合を表したものです。

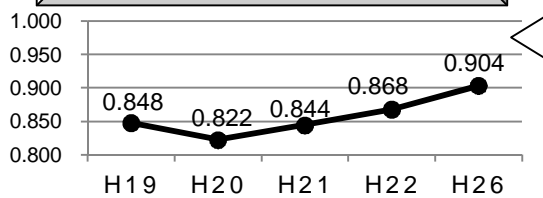
平成25年度と比べ、算数A・算数Bともに、若干下降傾向にあります。



基礎的・基本的な知識・技能の定着にがんばりがみえています

四則(+)・(-)・(×)・(÷)の混合した式の計算や何倍かの大きさ求める計算ができるようになってきています。

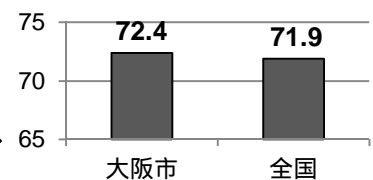
計算の順序を問う問題の正答率対全国比



A1(5)
100 - 20 × 4

A2(1)
80 cmの1.2倍の長さを求める式を選ぶ

何倍かを求める式を問う問題の正答率

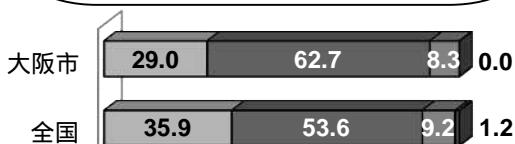


授業では計算力などの基礎・基本の定着をめざした指導が行われています。

学

補充的な学習の指導を行った

(肯定的回答:大阪市:91.7% 全国:89.5%)



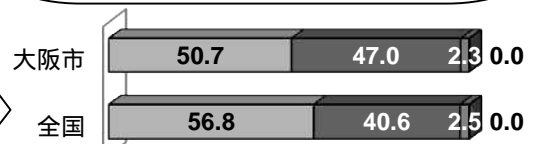
- よく行った
- どちらかといえば、行った
- あまり行っていない
- 全く行っていない

肯定的な回答が全国を上回っています

学

反復練習をする授業を行った

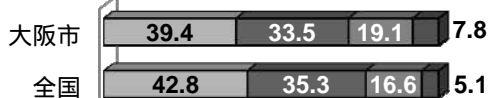
(肯定的回答:大阪市:97.7% 全国:97.4%)



「数や図形などの関係やきまりを見つけること」「いろいろな解き方やわけを考え説明すること」に
努力が必要です

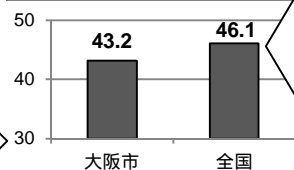
児

諦めずにいろいろな方法を考える
(肯定的回答: 大阪市: 65.6% 全国: 70.3%)

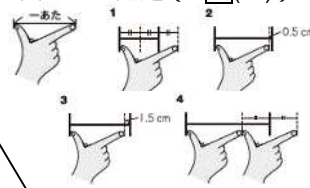


□当てはまる
□どちらかといえば、当てはまる
□どちらかといえば、当てはまらない
□当てはまらない

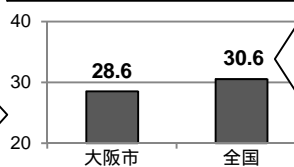
数量の関係を捉える
問題の正答率



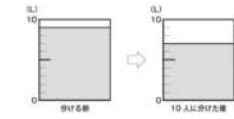
「一あた半」の長さを表す
図を選ぶ問題 (B[5](2))



判断の理由を説明する
問題の正答率



スプーンを残りの30人に分けることができる理由を
説明する問題 (B3)

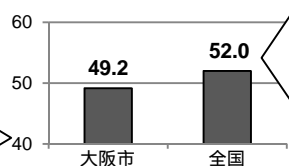


正答率が
とても
低いです

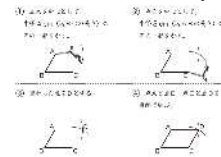
「学習したことを生活や学習の
様々な場面で活用すること」に
努力が必要です

算数Aの全問題の中で
最も正答率が低いです

活用している事柄を
関連付ける問題の正答率

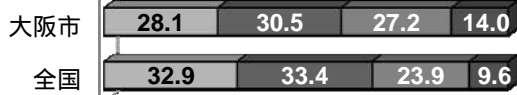


作図に使う図形の約束や
性質を見つける問題 (A[6])



児

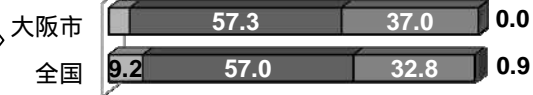
学習したことを生活の中で活用できないか考える
(肯定的回答: 大阪市: 58.6% 全国: 66.3%)



□当てはまる
□どちらかといえば、当てはまる
□どちらかといえば、当てはまらない
□当てはまらない

学

実生活における事象との関連を図った授業を行った
(肯定的回答: 大阪市: 63.0% 全国: 66.2%)



□よく行った
□あまり行っていない
□どちらかといえば、行った
□全く行っていない

肯定的な回答
が、全国を下
回っています

学校で

課題解決に向けた自分の考えを互いに伝え合う等、言語活動の充実を図った授業を展開します。
学習したことを身の回りや日常生活に活用する力を育みます。
習熟度別少人数授業を通して、一人一人の習熟の程度に合った指導を進めます。
「学習教材データ配信」等を活用し、計算練習等を継続して行います。

家庭で

計算練習や復習等を行うよう声をかけましょう。
算数ノート等を見ながら、学校で学んだことについて話題に取り上げましょう。
学習したことを家庭や生活で使い、子どもが「算数って便利だな！楽しいな！」と感じる
体験をさせましょう。
(例) 買い物時に計算する、いろいろな長さを測る、形(長方形、台形等)を見つける、等

効果があった取組例

週2日、朝の時間に、計算プリントや漢字プリント等を行っています。
思考力や活用力を育てる問題に取り組みさせる時間を設けています。
授業の始めに学習のめあてを共有し、授業の終わりに学習したことを振り返る活動を大切に
しています。
いろいろな考えを発表し合い、学び合うことを大切にしています。
習熟度別少人数授業や個別の支援(ヒントカードの活用等)を重視し、きめ細かな指導を
常に行っています。
校内研修を推進する教員を中心に、教材づくりや教員相互の模擬授業等、指導力向上をめ
ざした研修を行っています。

大阪市の取組

「言語活動の充実」(P.35)「習熟度別少人数授業」(P.35)「学習教材データ配信」(P.37)

課題と指導のポイント

調査問題の中で大阪市の子どもたちの平均正答率が特に低い問題
全国と比べて平均正答率の差が大きい問題
大阪市として継続して課題がみられる問題

【算数 A】(主として「知識」に関する問題)

課題 計算を確実にすること

- 1 (1)～(6) **設問の概要** 整数、小数、分数の計算や四則の混合した計算をする。〔平均正答率 大阪市 86.9% 全国 89.5%〕
学習指導要領における領域 [第2～5学年] A 数と計算

指導のポイント 基礎的・基本的な計算の技能の確実な定着を図るようにする

- 1 下の計算をしましょう。
- (1) $46 + 57$
- (2) 903×6
- (3) $9 - 0.8$
- (4) $2 \div 5$ (わりきれないまで計算して、商を小数で書きましょう。)
- (5) $100 - 20 \times 4$
- (6) $\frac{1}{3} + \frac{2}{5}$

整数、小数、分数の基本的な計算は年々定着してきているが、全国の平均正答率と比べると、各設問とも低い現状がある。

指導に当たっては、児童の学習状況を見ながら適度の繰り返し練習の機会を設けることが大切である。また、当該学年以降の学年においても必要に応じて繰り返し指導し、基礎的・基本的な計算の技能の習得や維持を図ることが大切である。

授業以外でも、朝の時間等に計算プリントで反復練習をする、宿題等の家庭学習の充実(答え合わせ、答え直しまできちんとさせる)を図る等、児童の実態や発達段階に合わせた取組を推進することが大切である。

課題 作図に用いられている図形の約束や性質を理解すること

- 6 **設問の概要** 平行四辺形の作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ。〔正答率 大阪市 49.2% 全国 52.0%〕
学習指導要領における領域 [第4学年] C 図形

指導のポイント 作図の操作と図形の性質を関連付けて、作図の意味を理解できるようにする

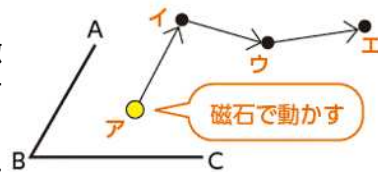
- 6 (一部略)
- ① 点Aを中心として、半径4cm(辺BCの長さ)の円の一部分をかく。
- ② 点Cを中心として、半径3cm(辺ABの長さ)の円の一部分をかく。
- ③ 交わった点をDとする。
- ④ 点Aと点D、点Cと点Dを直線で結ぶ。
- 左のコンパスを使ったかき方は、平行四辺形のどの特徴をよって使っていますか。下の①から④までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。
- 平行四辺形は、
- 1 向かい合っている辺が平行である。
 - 2 向かい合っている辺の長さが等しい。
 - 3 向かい合っている角の大きさが等しい。
 - 4 2本の対角線がそれぞれの真ん中の点で交わる。

作図の指導においては、単に作図の手順や方法を形式的に指導するだけでなく、その作図が図形のどのような約束や性質を用いているのかを考え、それを基に作図できるようにすることが大切である。

指導に当たっては、図形の特徴と対応付けて作図の手順を理解することが考えられる。

右図において、点Dの位置を予想させ、どうしてその位置であると予想したのか、その理由を話し合わせる。

「点Dがウの位置だと、ADとBC、ABとDCが平行になる」「点Dがウの位置だと、ABとDC、ADとBCが同じ長さになる」など図形の約束や性質と結びつけた考えを用いることで、作図の意味を理解できるようにすることが大切である。



授業の改善・充実を図る際の参考事例

「平成26年度全国学力・学習状況調査を踏まえた授業アイディア例」P.15～22
国立教育政策研究所ウェブサイト http://www.nier.go.jp/jugyourei/h26/idea_02.html

【算数 B】(主として「活用」に関する問題)

課題

根拠となる事柄を過不足なく示し、判断の理由を説明すること

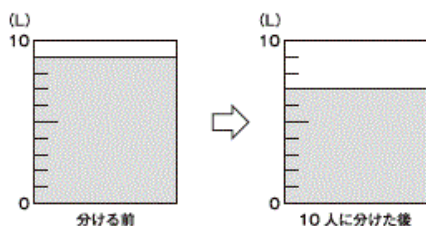
- 3(3) 設問の概要 示された図から、残りの 30 人にスープを分けることができるかどうかを選び、そのわけを書く。
〔正答率 大阪市 28.6% 全国 30.6%〕

学習指導要領における領域 [第 2 学年] B 量と測定 [第 5 学年] B 量と測定

指導のポイント

必要な情報を選択し、根拠となる事実を関連付けて説明できるようにする

- (3) ともみさんは、右のような入れ物に入っているスープを分ける係になりました。
ともみさんは、玉じゃくし 1 ばいを 1 人分として、40 人に分け始めました。すると、分ける前と 10 人に分けた後では、下の図のようになりました。



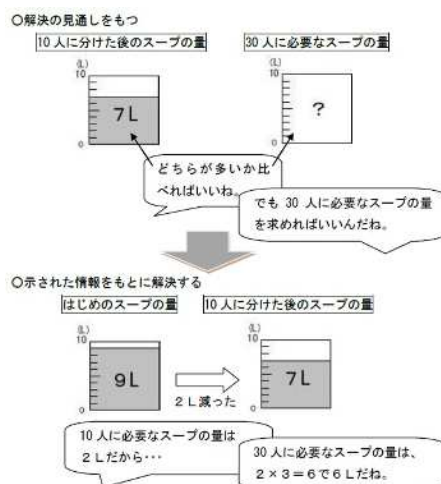
この分け方で、残りの 30 人にスープを分けることができますか。
次の 1 から 3 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。
また、その番号を選んだわけを、言葉と数を使って書きましょう。

- 1 足りなくなって、分けることができない。
- 2 残さず分けることができる。
- 3 分けることはできるが、残る。

問題を解決した過程を説明する際には、問題（文章や図、表、グラフ等）から必要となる情報を選択するとともに、根拠となる事実を関連付けて、判断の理由を的確に示すことが大切である。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、「残りの 30 人にスープを分けることができるかどうか」を判断するためにはどうすればよいのか、解決の見通しを明確にする必要がある。

見通しに基づいて、30 人に必要なスープの量と残りの量を、示された情報からの的確に求めるようにすることも大切である。



課題

数量の関係を図で正しく表現すること

- 5(2) 設問の概要 示された情報を解釈し、基準量の 1.5 倍の長さを表している図を選択する。

〔正答率 大阪市 43.2% 全国 46.1%〕

学習指導要領における領域 [第 5 学年] A 数と計算

指導のポイント

小数倍の意味を図と関連付けて理解できるようにする

- (2) まことさんは、使いやすいはしの長さのめやすについて発表します。



使いやすいはしの長さのめやす

使いやすいはしの長さのめやすは、「一あた半」と言われています。

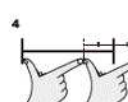
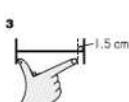
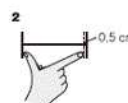
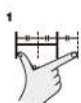
一あたは、親指と人差し指を直角に広げたときの

それぞれの指先を結んだ長さです。

一あた半は、一あたを 1.5 倍した長さです。



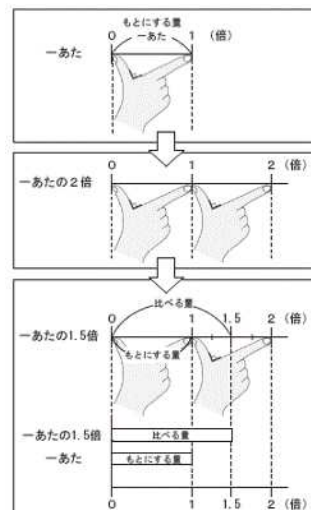
下の 1 から 4 までの中から、一あた半の長さを表しているもの (1) を 1 つ選んで、その番号を書きましょう。



問題場面から小数倍の関係を的確に捉えるためには、数量の関係を図に表すことを通して、基準量と比較量の大きさの関係を明らかにすることが大切である。

指導に当たっては、繰り返し図を用いて、具体的に小数倍の大きさを理解できるようにすることが大切である。

また、本設問を用いて、「一あた」の 2 倍や 1.5 倍の大きさを右の図のように実際に表現する活動を行い、そこから数直線のような抽象的な表現に高めていく指導も必要である。



中学校国語

A問題 平均正答率：75.9%（全国：79.4%） 平均無解答率：4.2%（全国：3.1%）

B問題 平均正答率：46.3%（全国：51.0%） 平均無解答率：5.0%（全国：3.5%）

生

生徒質問紙

学

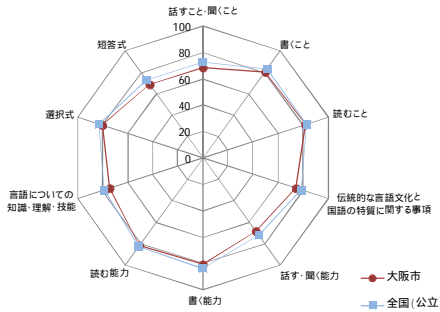
学校質問紙

結果チャート

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

A問題では、「話すこと・聞くこと」「話す・聞く能力」「短答式」の項目で低い値を示しています。

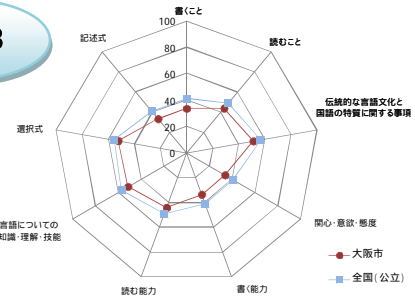
国語 A



平均正答率及び平均無解答率については、P.2 の表を参照のこと。

B問題では、「書くこと」「関心・意欲・態度」「書く能力」「記述式」の項目で低い値を示しています。

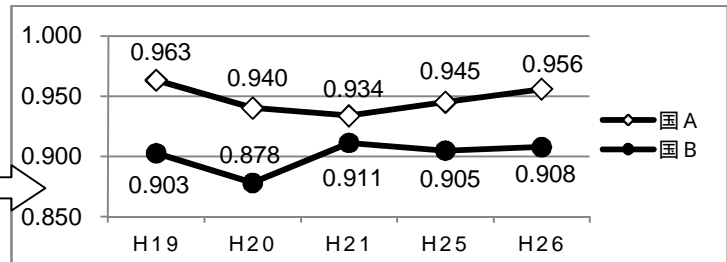
国語 B



対全国比経年比較

グラフは、全国の平均正答率を1としたときの国語 A・国語 B の大阪市の割合を表したものです。

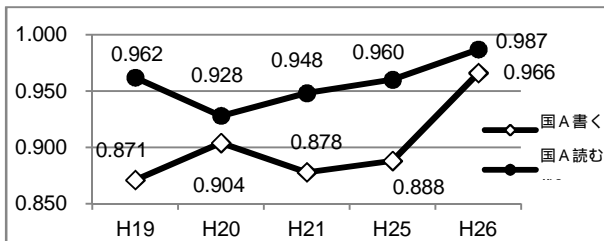
対全国比については、悉皆調査の平成 19,20,21,25,26 年度を取り上げています。



平成 25 年度と比べ、国語 A・国語 B とともにゆるやかな改善傾向にあります。

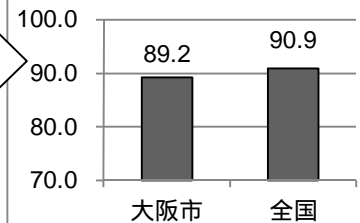
主として知識に関する「書くこと」「読むこと」にがんばりがみえています

国語 A 「書くこと」「読むこと」領域の対全国比に改善がみられています。



心情を情景で表す問題の正答率

主人公の気持ちの変化にふさわしい空の描写を答える問題（A2ー）

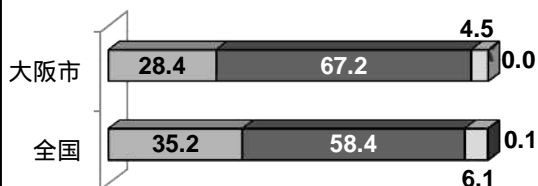


授業では「書く」「読む」習慣をつける指導が行われています。

学

書く習慣を付ける指導を行った

（肯定的回答：大阪市：95.6% 全国：93.6%）



よく行った

どちらかといえば、行った

あまり行っていない

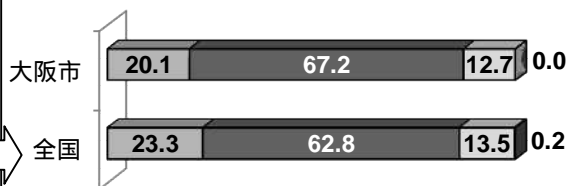
全く行っていない

肯定的な回答が全国を上回っています

学

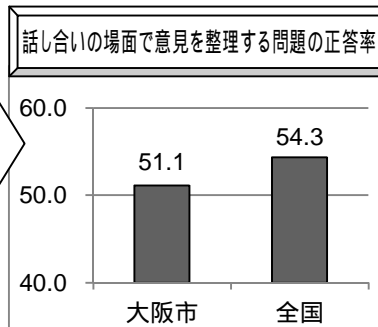
様々な文章を読む習慣を付ける指導を行った

（肯定的回答：大阪市：87.3% 全国：86.1%）



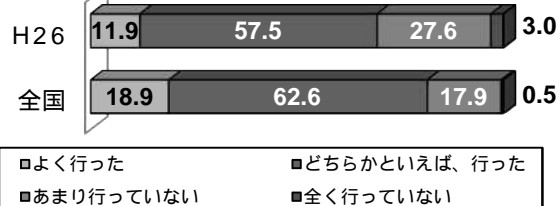
話し合う力をつけることに努力が必要です

卒業文集の題名を決める話し合いで、2人の発言を聞いて意見の相違点を整理する問題（A[6]ー）



学

目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った
(肯定的回答: 大阪市: 69.4% 全国: 81.5%)



根拠を明確にし、分かりやすく説明することに努力が必要です

接着剤について書いた本とインターネットの資料を読み取り、「封筒に貼ってある切手を水の中に浸しておくときれいにはがせる理由」を書く問題（B[2]三）

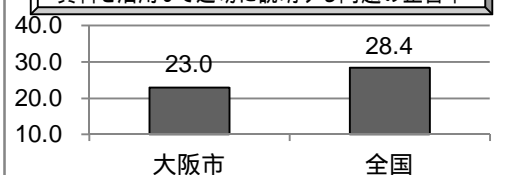
【正答例】

切手ののりが液体になり、アンカー効果を失うから。

【誤答例】

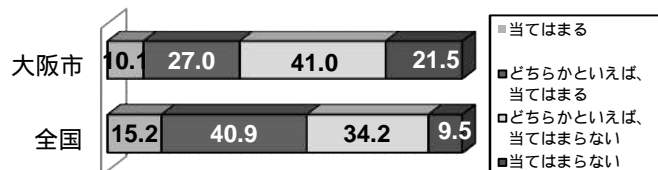
- ・アンカー効果でくっついてた切手が、水に浸すことで固体から液体になったから。(事実を明確に書けていない)
- ・アンカー効果がなくなったから、切手ののりが固体から液体になった。(原因と結果を逆にとらえて書いている)

資料を活用して適切に説明する問題の正答率



生

目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりしている (肯定的回答: 大阪市: 37.1% 全国: 56.1%)



学校で

目的に沿って話し合う活動を取り入れた授業を行い、話す力や聞く力を育みます。
言語活動の充実を図り、根拠を明確にして分かりやすく説明する力を育みます。
本やインターネットの情報など複数の資料を活用して読み取る力を育みます。
読書タイムや朝の斉読書の時間を設ける等、読書習慣の形成を図ります。
「学習教材データ配信」等を活用し、語句の定着や漢字の習得を図ります。
学ぶ喜びを味わい自信がもてるように習熟度別少人数授業を活用し、学習への意欲を高めます。

家庭で

ニュースを基に会話を広げましょう。
文章を書く機会をつくりましょう。親戚やお世話になった方に出す手紙には、改まった表現や漢字を適切に使う力が必要です。
家族で感銘を受けた本を互いに紹介し合う時間をつくりましょう。

効果があつた取組例

授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示し、最後に学習したことを振り返る活動を行っています。
漢字の読み書きの問題をクイズ形式で行い、漢字の習得を図っています。
学校図書館を充実し、読書活動を進めています。
黒板の横に設置したホワイトボードに各教科の宿題を記入して、担任からの声かけを行っています。
小中連携を行い、小中学校が協力して、一貫性・連続性のある指導を行っています。
習熟度別少人数授業を効果的に活用し、個に応じた指導の充実を図っています。

大阪市の取組

「言語活動の充実」(P.35)「習熟度別少人数授業」(P.35)「学習教材データ配信」(P.37)
「小中一貫した教育」(P.39)「学校図書館活性化事業」(P.40)「学び続ける教員サポート事業」(P.42)

課題と指導のポイント

調査問題の中で大阪市の子どもたちの平均正答率が特に低い問題
全国と比べて平均正答率の差が大きい問題
大阪市として継続して課題がみられる問題

【国語 A】(主として「知識」に関する問題)

課題 目的に沿って話し合い、互いの発言を検討すること

- 6— **設問の概要** 二人の発言を聞いて、意見の相違点を整理する。〔正答率 大阪市 51.1% 全国 54.3%〕
学習指導要領における領域 [第2学年] A 話すこと・聞くこと



「メモリー」いつも隣に友がいた」がよいと考えます。修学旅行や合唱などの思い出を記録するのが文集だからです。読み返すたびに楽しかった過去を思い出すごう。また、副題から、学級でいつも団結できたことも表せます。

「はばたき」きずなを胸に」を推薦する理由は二つあります。一つめは、未来にはばたいていく私たちの姿を表す題名だからです。二つめは、



指導のポイント

複数の案から一つに絞り込む話し合い活動の際には、意見の共通点や相違点を整理する

特に相違点を明確にすることは、議論を焦点化する上で重要である。板書等で整理する際には、意見の内容を簡潔に示すだけでなく、対照的な内容を分かりやすく示すように指導することが大切である。

題名の候補について		
候補	メモリー ～いつも隣に友がいた～	はばたき ～きずなを胸に～
整理		
共通点	学級の団結力	
相違点	過去の思い出	

課題

- ・辞書を活用して語句の意味を適切に書くこと
- ・文脈に沿って語句の意味を理解すること

- 8三 **設問の概要** 適切な語句を選択する。
(ア良い結果を早く出したいときは、急がば回れといわれるように、かえって慎重に議論をすめるべきだ) 〔正答率 大阪市 55.2% 全国 59.2%〕
8四 **設問の概要** 国語辞典で調べたことを基に、語句の意味を書く。(英気を養う) 〔正答率 大阪市 56.0% 全国 59.9%〕

学習指導要領における領域 [第1学年及び第2学年] 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

指導のポイント

場面に即した多様な語句・語彙指導の工夫をする

語句についての理解を深めるためには、語句の辞書的な意味を基にして、話や文脈の中での意味を捉えることが大切である。例えば、同音異義語について、用いられている漢字や前後の文脈から意味を考えることなどが有効である。また、語感を磨き語彙を豊かにするためには、実際に話や文章の中でことわざや慣用句等を使い、その意味や用法を考えるなどの学習活動が効果的である。

指導のポイント

辞書を活用する

辞書を活用する際には、辞書の記述の仕方を理解した上で活用することが大切である。また、難語句を調べる際には、文脈に沿って語句の意味を選び、それが文中の意味として適切かどうかを確認することが重要である。

「読んでいた本の一部」	十分に休養を取ったので、明日の <u>英気を養う</u> ことができた。
【国語辞典】	
えいき【英気】(名)	①すぐれた才気。 ②活動する気力。
やしな・う【養う】(他動・五段)	①衣食など、生活の面倒をみる。 ②脚を与えて動物を飼う。 ③体力・知力などを少しずつ作り上げる。

【国語 B】(主として「活用」に関する問題)

課題

複数の資料を比較して読み、要旨を捉えること

2-1 設問の概要

本とインターネットの内容を比較したときの説明として適切なものを選択する。

[正答率 大阪市 30.1% 全国 31.4%]

学習指導要領における領域

[第1学年] A 読むこと

いろいろな物をくっつけることができる接着剤。物を組み立てるときや壊れた物を直すときなどに、とても便利なものです。なぜ接着剤は物と物とをくっつけることができるのでしょうか。物をくっつける仕組みはいろいろありますが、ここでは代表的な仕組みを考えてみましょう。

接着する物の表面を顕微鏡で見ると、つるつるしているように見える金属でも、その表面には肉眼では見えない凹凸があることが分かります。そこに接着剤を塗ると、凹凸のすき間に接着剤が入り込みます。そして、すき間に入った接着剤が固まることで物がくっつきます。これをアンカー効果といいます。アンカーとは錨(いかり)のことです。接着剤が物をくっつける仕組みを海の底に錨を下ろし船を留めておく様子に例えて、そう呼んでいます。つまり、液体の状態の物の表面に広く行き渡った接着剤が、すき間に入って固体となることで、物と物をくっつけているのです。

～後略～



【本の一部】

飛行機
飛行機の機体を組み立てるときも接着剤を使います。以前はリベット(びょう)でとめていましたが、接着剤を利用することで空気抵抗が少なく、機体が軽くなるので、速度性能や燃費が向上しました。また、リベットは点で固定していますが、接着剤でとめると、面で固定できるので、強度を増すことができます。



スペースシャトル
スペースシャトルの表面にはたくさんのタイルが接着剤でつけられています。大気圏に突入するときのまさつねつと宇宙空間での太陽熱にたえるために、スペースシャトルの材料にはタイルが使われています。そのタイルが割れたり、はがれたりしないように、弾力があり、1500℃の高温にもたえるすぐれた接着剤が使われています。



～後略～

【インターネットの情報の一部】

(経済産業省ウェブサイトによる)

指導のポイント

目的に応じて文章の要旨を的確に捉えることができるようにする

目的に応じて文章の要旨を的確に捉えるためには、文章の特徴を踏まえて内容を正確に理解する必要がある。例えば、説明的な文章を読んで、更に調べたい内容を明確にした上で、様々な資料から必要な情報を的確に得る学習活動が有効である。その際、読む目的を明確にした上で、中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、必要な情報を正しく得るように指導することが大切である。

課題

伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くこと

2-3 設問の概要

切手を水の中に浸しておくときれいにはがすことができる理由を書く。

[正答率 大阪市 23.0% 全国 28.4%]

学習指導要領における領域

[第1学年] B 書くこと [第2学年] C 読むこと

指導のポイント

伝えたい事柄を明確にして、分かりやすく書く指導の工夫をする

伝えたい事柄を整理して分かりやすく書く力を身につけるために、目的や相手に応じて、取り上げる内容、それらを示す順番などを考え、よりよい文章にするように指導することが大切である。その際、取り上げる内容は適切か、それらの内容を用いて書いた文章が、伝えたい事柄を正確に伝えるものになっているかなどの観点で、文章を読み直すことが重要である。

指導のポイント

根拠を明確にして、自分の考えを具体的に書く指導の工夫をする

本や文章を読んで考えたことを具体的に書く力を身につけるために、本や文章のどの部分に特に興味や関心を持ったのかを明確に示した上で、なぜそこに着目したのか、その内容について自分はどのように考えるのかなどを丁寧に書くように指導することが大切である。例えば、引用した箇所と自分の考えとの関連、根拠として取り上げた内容の妥当性など、書いた文章を複数の観点から見直すことが重要である。その際、自分の考えに照らして、根拠として取り上げた引用や要約の量は適切か否かも考えることが大切である。

授業の改善・充実を図る際の参考事例

「平成26年度全国学力・学習状況調査を踏まえた授業アイディア例」P.7～14
国立教育政策研究所ウェブサイト http://www.nier.go.jp/jugyourei/h26/idea_03.html

中学校数学

A問題 平均正答率：62.5%（全国：67.4%） 平均無解答率：6.2%（全国：4.3%）

B問題 平均正答率：55.2%（全国：59.8%） 平均無解答率：14.5%（全国：10.9%）



生徒質問紙



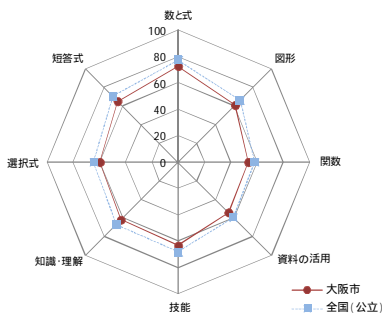
学校質問紙

結果チャート

領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

A問題では、「関数」「資料の活用」の項目で低い値を示しています。

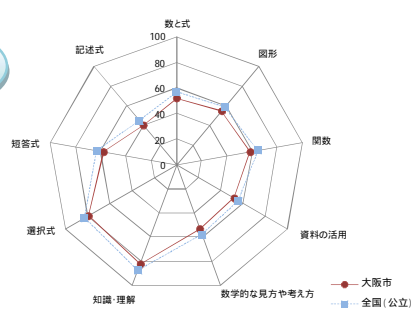
数学A



平均正答率及び平均無解答率については、P.2の表を参照のこと。

B問題では、「数と式」「資料の活用」「数学的な見方や考え方」「記述式」の項目で低い値を示しています。

数学B

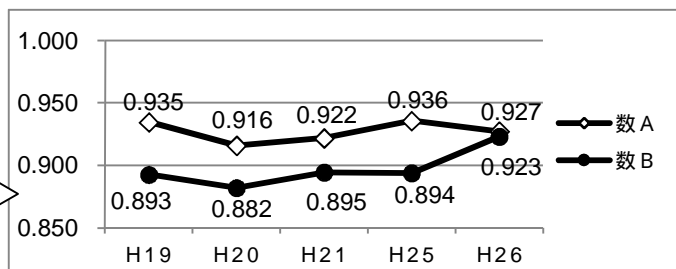


対全国比経年比較

対全国比については、悉皆調査の平成19,20,21,25,26年度を取り上げています。

グラフは、全国の平均正答率を1としたときの数学A・数学Bの大阪市の割合を表したものです。

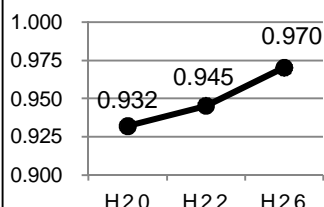
平成25年度と比べ、数学Aについては顕著な変化はみられませんが、数学Bについては改善がみられます。



基礎的・基本的な知識・技能の定着にがんばりがみえてきています

文字式を使った計算や立体についての知識を問う問題ができるようになってきています。

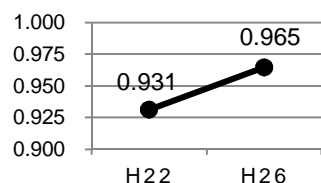
文字式を使った計算問題の正答率対全国比



「男子 m 人と女子 n 人が1人2個ずつ持った風船の合計数を m と n で表す」ような問題 (A2(4))

「三角形をその面と垂直な方向に一定の距離だけ平行移動させてできる立体を選ぶ」問題 (A5(2))

立体についての知識を問う問題の正答率対全国比

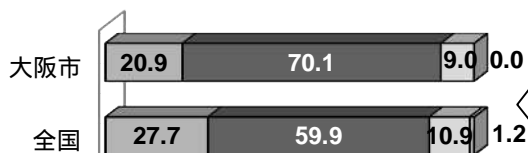


子どもたちのがんばりにつながる指導が行われています。

学

補充的な学習の指導を行った

(肯定的回答：大阪市：91.0% 全国：87.6%)

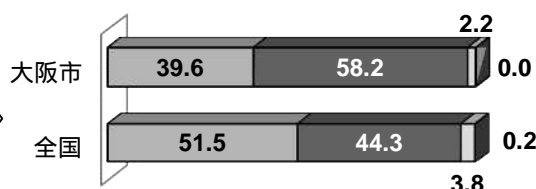


肯定的な回答が全国を上回っています

学

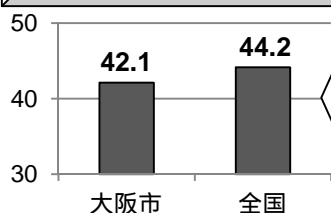
反復練習をする授業を行った

(肯定的回答：大阪市：97.8% 全国：95.8%)



いろいろな解き方を筋道を立てて考え、その理由を説明することに努力が必要です

理由を説明する問題の正答率



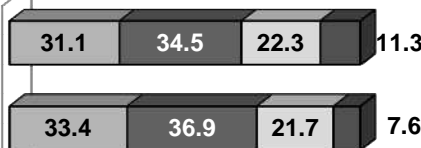
「『偶数どうしの割り算の答えがいつでも偶数にならない』理由を書く」問題 (B2(3))

生

諦めずにいろいろな方法を考える
(肯定的回答：大阪市：63.9% 全国：70.0%)

大阪市

全国



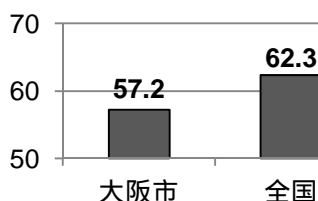
■当てはまる

■どちらかといえば、当てはまる
■どちらかといえば、当てはまらない
■当てはまらない

実生活と関連付けることに努力が必要です

例「電話会社の料金プランから自分にあったプランを選ぶ(関数)」や、「ふたのない箱を作るために必要な紙の大きさで最も小さいものを考える(方程式・図形)」等

日常的な場面を取り上げた問題の正答率



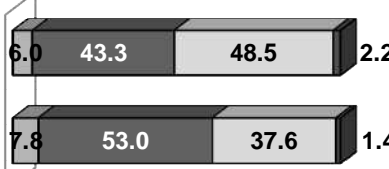
「ウェブする人数と時間について、2つの数量の間の関係を説明する」問題 (B3(2))

学

実生活における事象との関連を図った授業を行った
(肯定的回答：大阪市：49.3% 全国：60.8%)

大阪市

全国



■よく行った

■どちらかといえば、行った
■あまり行っていない
■全く行っていない

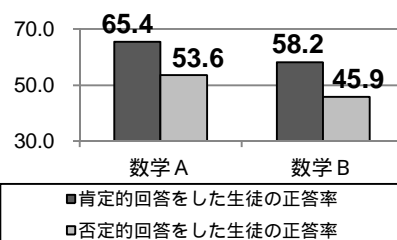
学校で

「学習教材データ配信」等を活用し、計算や面積・体積の求め方等、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ります。実生活の様々な場面を取り上げ、数学を使って考えさせる授業を積極的に取り入れます。なぜそのようになるのかを筋道を立てて考える力や、自分の言葉で説明する力を育みます。問題の解き方や考え方の筋道が分かる板書やノート指導を工夫します。習熟度別少人数授業を通して、一人一人の習熟の程度に合った指導を進めます。

生

問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書く

ノートに書く生徒の正答率が高い



家庭で

「砂糖をスプーンで一定量すくう回数とそのときの砂糖の量の関係」や「水を熱した時間と水温の関係」等、学習したことを日常生活で使いましょう。数学のノートを見ながら、学校で学んだことについて話題に取り上げましょう。計算練習等、基礎的・基本的な学習を繰り返し行うよう励ましましょう。

効果があつた取組例

授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示し、最後に学習したことを振り返る活動を行っています。知識・技能の習得を図るために、10分ほどの単元テストを行っています。(2~3週間ごとに実施)習熟度別少人数授業を積極的に行い、個に応じた指導を進めています。学校元気アップ地域本部事業を活用して、放課後や長期休業中に学習スペースや学習時間を確保し、補充的な学習を行っています。小中連携を行い、小中学校が協力して、一貫性・連続性のある指導を行っています。

大阪市の取組

「言語活動の充実」(P.35)「習熟度別少人数授業」(P.35)「学習教材データ配信」(P.37)「学校元気アップ地域本部事業」(P.38)「小中一貫した教育」(P.39)「学び続ける教員サポート事業」(P.42)

課題と指導のポイント

調査問題の中で大阪市の子どもたちの平均正答率が特に低い問題
全国と比べて平均正答率の差が大きい問題
大阪市として継続して課題がみられる問題

【数学 A】(主として「知識」に関する問題)

課題

数量の大小関係を不等式で表すこと

- 2(1) **設問の概要** 数量の大小関係を不等式に表す。

〔正答率 大阪市 38.1% 全国 45.2%〕

学習指導要領における領域 [第1学年] A 数と式

指導のポイント

不等号の意味をことばと合わせて理解できるようにする

文脈に沿って、「以上」「以下」「より大きい」「未満」のいずれかを的確にとらえ、不等号を用いて表現する活動を重視することが大切である。

(1)「プールの水の深さは120cm以下である」という数量の関係を、プールの水の深さを x cm として不等式で表しなさい。

解 答 類 型	反 応 率 (%)		
	大阪市	全国(公立)	
$x = 120$	38.1	45.2	正解
$x < 120$	17.0	17.2	
$x = 120$ または $x > 120$	10.1	13.6	
上記以外の解答	16.8	13.1	
無解答	17.8	11.1	

「120cm 以下」と「120cm 未満」を混同している

課題

2つの図形の関係を捉えること

- 4(3) **設問の概要** 与えられた角が回転移動した後の角を選ぶ。

〔正答率 大阪市 34.8% 全国 42.5%〕

学習指導要領における領域 [第1学年] B 図形

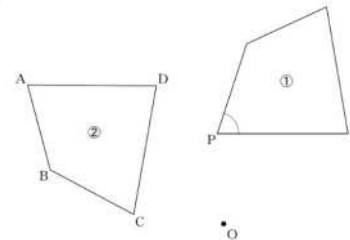
指導のポイント

図形の移動を視覚的に捉えられるようにする

実際に図形を紙で作る、電子黒板等の ICT 機器を活用する等、視覚的に認識する活動を通して、移動前と移動後の2つの図形の関係を捉えるよう指導を工夫することが大切である。

(3) 次の図で、四角形②は、四角形①を点Oを中心として反時計回りに80°だけ回転移動したものです。

四角形①の∠Pに対応する四角形②の角を、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。



課題

関数の意味を理解すること

- 9 **設問の概要** 「は の関数である」という形で表現する。

〔正答率 大阪市 31.5% 全国 35.8%〕

学習指導要領における領域 [第1学年] C 関数

指導のポイント

様々な事象の考察を通して、関数の意味を理解できるようにする

日常的な事象の中の2つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの関係を見いだす活動を通して、関数の意味を理解できるように指導することが必要である。その際、「一方の値()が決まれば、他方の値()が一つ決まること」を理解した上で、「は の関数である」という形で表現できるようにすることも大切である。

- 9 下の表は、ある運送会社の書類の宅配サービスの料金表です。

重量	100g まで	250g まで	500g まで	1kg まで
料金	150円	190円	270円	320円

このサービスで扱える書類の重量は1kgまでです。

このとき、1kgまでの書類の重量と料金について、「重量を決めると、それにもなつて料金がただ1つ決まる」という関係があります。

下線を、次のように表すとき、①と②に当てはまる言葉を書きなさい。

① は ② の関数である。

【数学 B】(主として「活用」に関する問題)

課題

証明を振り返って考え、新たな性質を見いだすこと

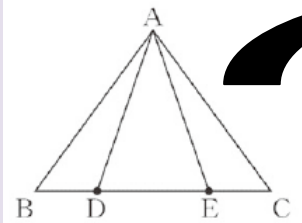
- 4(2) **設問の概要** 付加された条件の下で、証明を振り返って考え、与えられた角の大きさを求める。

〔正答率 大阪市 20.7% 全国 23.3%〕

学習指導要領における領域

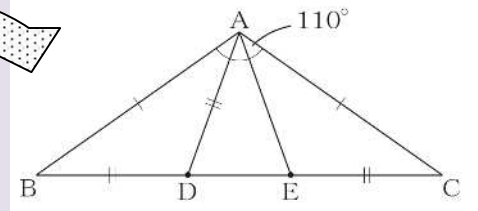
〔第2学年〕 B 図形

(2) $\angle BAC = 110^\circ$, $BD = AD$ のとき, $\angle DAE$ の大きさを求めなさい。



条件に合わせて図を書き直す

$AB = AC$, $AD = AE$
(前問より)
 $\angle BAC = 110^\circ$, $BD = AD$



指導のポイント

証明の過程や結論を基に、発展的に考えることができるようにする

証明を振り返り、証明の過程で見いだした事柄や証明された事柄に着目し、新たな性質を見いだすことができるように指導することが大切である。

課題

確率を用いて起こりやすさの傾向を説明すること

- 5(2) **設問の概要** スティックゲームの遊び方を基に、1点と2点の取りやすさについて正しい記述を選び、その理由を確率を用いて説明する。
〔正答率 大阪市 28.3% 全国 32.1%〕

学習指導要領における領域

〔第2学年〕 D 資料の活用

指導のポイント

- ・ 樹形図を利用して、落ちや重なりがないように数え上げる必要があることを理解できるようにする
- ・ 起こり得る全ての場合の確率を求め、予想を確かめられるようにする

どのような間違いをしたのかを類型別にみて、生徒の理解度を把握し、授業の改善につなげることが大切である。

表と裏の5通りの出方を基に確率を求めたためと考えられる。

設問で与えられた樹形図の一部分のみに着目して、5点の場合を考えずに、1点と2点の場合のみを考えて確率を求めたためと考えられる。

(2) 1点より2点の方がとりやすいですか。下のア、イの中から正しいものを1つ選び、それが正しいことの理由を、確率を使って説明しなさい。

ア 1点より2点の方がとりやすい。

イ 1点より2点の方がとりやすいとはいえない。



4本表, 0本裏... 5点
3本表, 1本裏... 2点
2本表, 2本裏... 1点
1本表, 3本裏... 2点
0本表, 4本裏... 5点

正答の条件	解答類型	反応率 (%)		正答
		大阪市	全国(公立)	
アを選択	アを選択し、事象の起こりやすさを判断するために次の(a)、(b)について記述しているもの	25.9	30.3	
	(a) 1点をとるときの確率を求めること	0.1	0.1	
	(b) 2点をとるときの確率を求めること	2.3	1.7	
	確率または場合の数の数値や用語に誤りがあるもの	16.8	18.3	
	イを選択しているもの	25.7	26.4	
無解答		10.9	7.3	

授業の改善・充実を図る際の参考事例

「平成26年度全国学力・学習状況調査を踏まえた授業アイディア例」P.15~22
国立教育政策研究所ウェブサイト https://www.nier.go.jp/jugyourei/h26/idea_04.html

質問紙調査の結果

全国学力・学習状況調査では、教科に関する調査と共に、生活習慣や学習環境に関する質問紙調査も行っています。

質問紙調査には、【児童生徒質問紙】による調査と【学校質問紙】による調査があります。

【児童生徒質問紙】

児童生徒を対象にした、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

【学校質問紙】

学校を対象にした、指導方法に関する取組や人的・物的教育条件の整備の状況等に関する調査

質問紙調査の結果分析を踏まえ、学校、保護者、地域（市民）が連携して、学力向上をはじめ、生きる力の育成に向けた取組を進めることが大切です。

▶▶ **学びの充実に向けて** - 思考力・判断力・表現力を育むために -

▶▶ **基本的な生活習慣** - 規則正しい生活をしましょう -

▶▶ **家庭学習** - 家庭学習を計画的にしましょう -

▶▶ **自尊感情・規範意識** - ほめて伸ばそう子どものころ -

▶▶ **学校・家庭・地域の連携** - つながりを大切にしましょう -

▶▶ **学校組織の改善** - 学校の活性化をめざして -

- 大阪市の結果から -

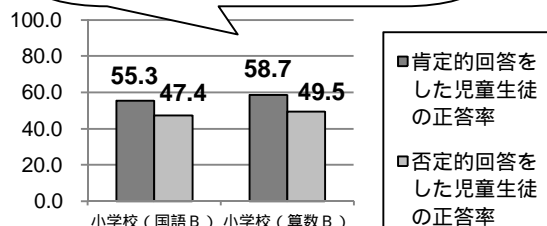
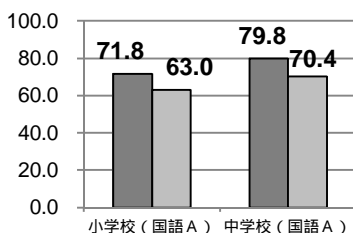
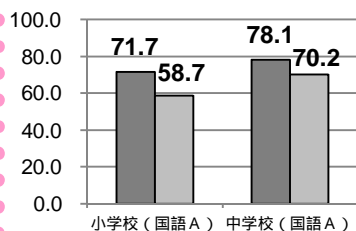
児 生

次の項目に肯定的に回答している児童生徒の方が、正答率が高い傾向にあります

自分の考えを発表する機会がありますか

読書は好きですか

話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか <新規項目>



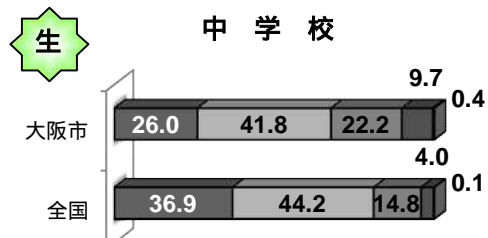
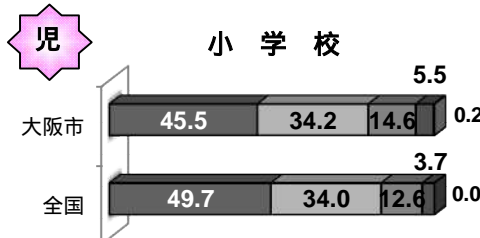
■ 肯定的回答をした児童生徒の正答率
□ 否定的回答をした児童生徒の正答率

- 全国と比較して -

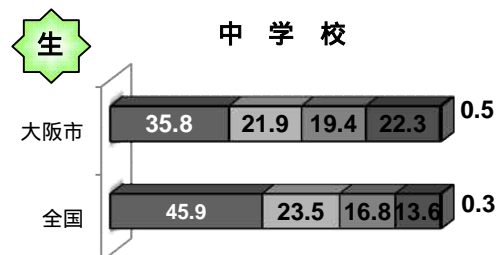
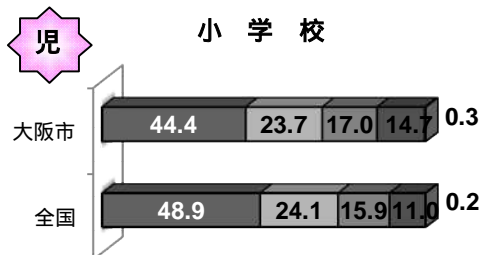
「自分の考えを発表する機会がある」「読書は好き」「話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」について肯定的に回答している児童生徒の割合が低い傾向にあります

■ 当てはまる
□ どちらかといえば、当てはまる
□ どちらかといえば、当てはまらない
■ 当てはまらない
□ 他、無回答

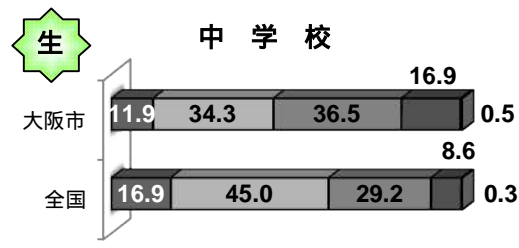
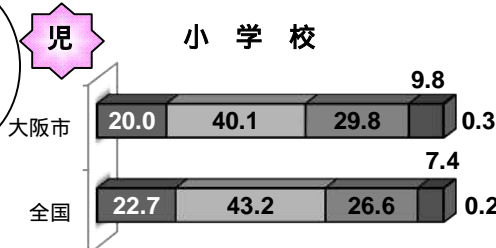
自分の考えを発表する機会がある



読書は好き



話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか <新規項目>

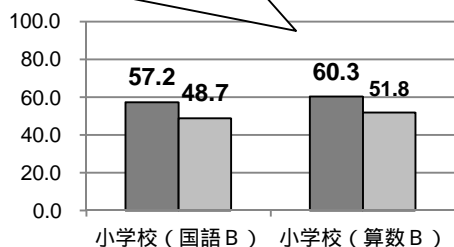


- 大阪市の結果から -

児

次の項目に肯定的に回答している児童の方が、正答率が高い傾向にあります

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



■ 肯定的回答をした児童の正答率
□ 否定的回答をした児童の正答率

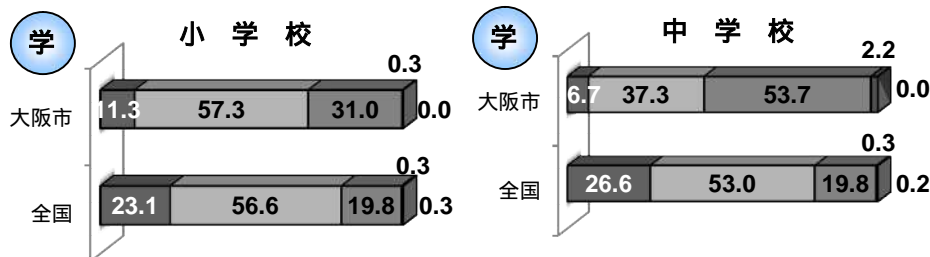


- 全国と比較して -

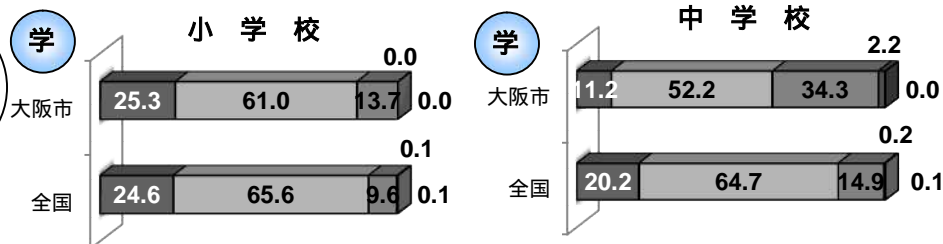
「総合的な学習の時間において、探究の過程（課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現）を意識した指導をした」「各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けた」学校の割合が低い傾向にあります

■ よく行った
□ どちらかといえば、行った
■ あまり行っていない
■ 全く行っていない
■ 他、無回答

総合的な学習の時間において、探究の過程を意識した指導をした

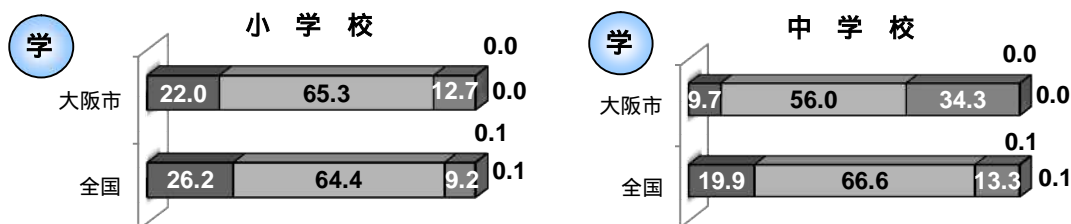


各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けた<新規項目>



全国と比較して、「自分で調べたことをわかりやすく文章に書かせる指導をした」学校の割合が低い傾向にあります

自分で調べたことをわかりやすく文章に書かせる指導をした



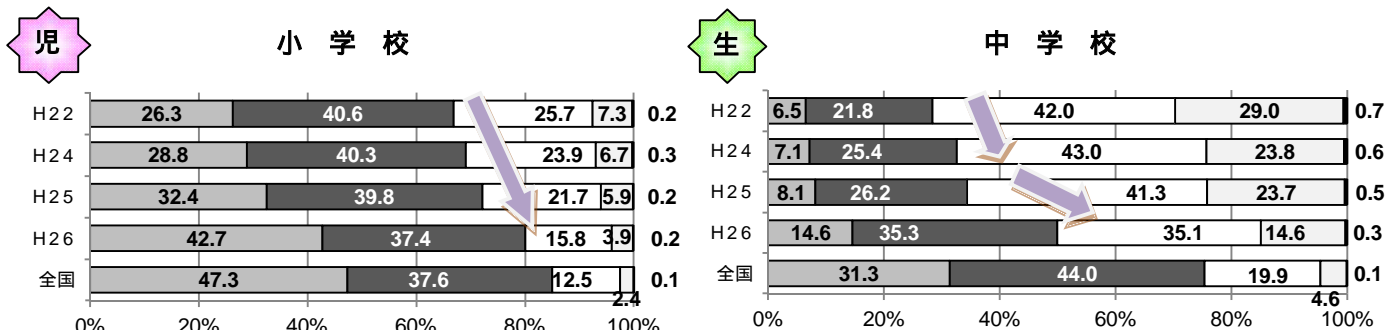
■ よく行った
□ どちらかといえば、行った
■ あまり行っていない
■ 全く行っていない
■ 他、無回答

- 大阪市の結果から -

「学級やグループで話し合う活動を授業などで行った」について肯定的に回答している児童生徒の割合は年々増加していますが、全国と比較して低い傾向にあります

話し合う活動を授業などで行った

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる
□どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない
■他、無回答



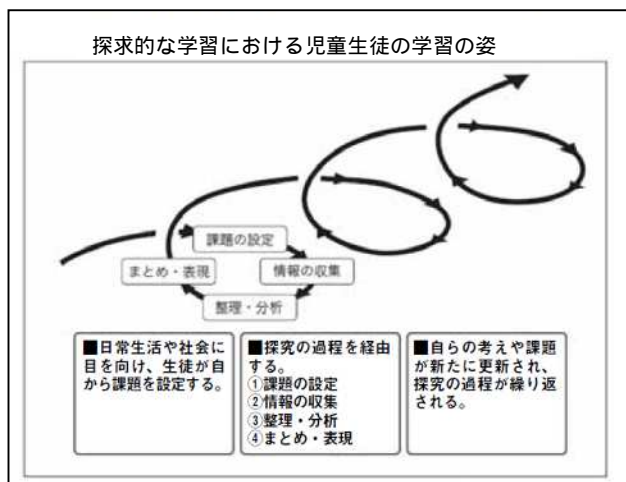
学校で

自分の考えを説明する場面や、グループで互いに考えを伝え合う場面等を取り入れた授業づくりを進めます。（言語活動の充実）

ICT機器等を活用し、協働的な学びを進めます。

学校図書館を整備し、ディスプレイの工夫を行う等、読書意欲の向上を図ります。

「総合的な学習の時間」では、右のような探求の過程（課題の設定 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現）を意識した学習活動を行い、論理的に考え、他者に分かりやすく表現するような実社会で活用できる能力を育みます。



家庭で

学校で学んだことを振り返り、生活の中で活用してみましょう。新しい発見につながります。「なぜだろう」とか「これはおもしろいな」という子どものつぶやきに耳を傾け、話題に取り上げましょう。

効果があった取組例

朝の一齐読書や、国語科の授業における並行読書（単元の学習中に、教材文と同じ作者や同じテーマの本を読むこと）に取り組んでいます。

電子黒板や書画カメラ（OHC）で子どものノートやワークシートを写し、話し合い活動を深めています。

地域の特色を生かした教材を開発し、「総合的な学習の時間」を充実させています。

大阪市の取組

「言語活動の充実」（P.35）「ICTを活用した教育の推進」（P.36）
「学習教材データ配信」（P.37）「放課後ステップアップ事業」（P.37）
「学校元気アップ地域本部事業」（P.38）

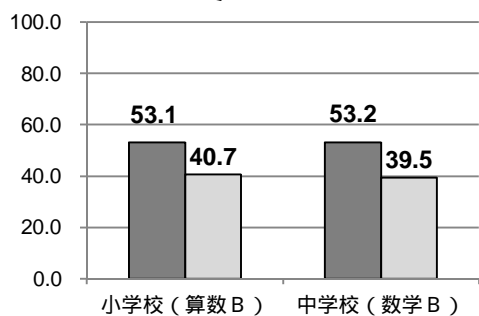
- 大阪市の結果から -

児

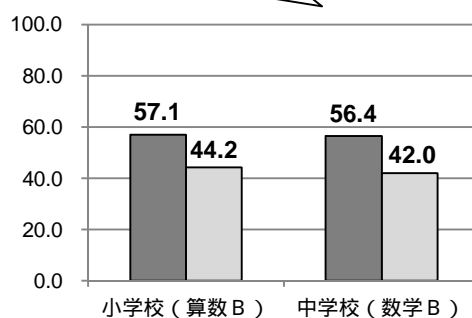
生

次の項目に肯定的に回答している児童生徒の方が、全ての教科で平均正答率が高い傾向にあります

朝食を毎日食べていますか



毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



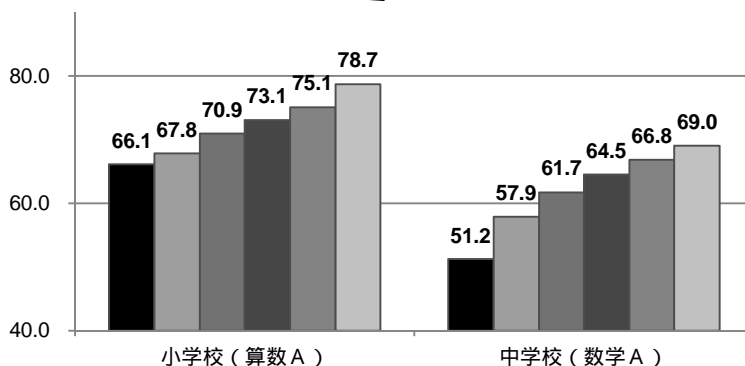
■ 肯定的回答をした児童生徒の正答率
□ 否定的回答をした児童生徒の正答率

児

生

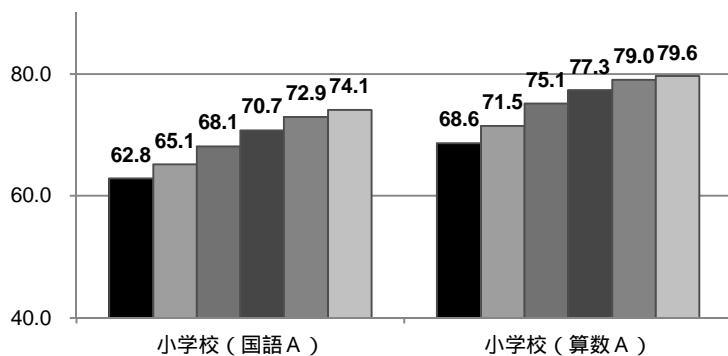
「携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間」「テレビゲームをする時間」が少ないほど平均正答率が高い傾向にあります

普段、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか



■ 4時間以上
■ 3時間以上、4時間より少ない
■ 2時間以上、3時間より少ない
■ 1時間以上、2時間より少ない
■ 30分以上、1時間より少ない
□ 30分未満

普段、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか



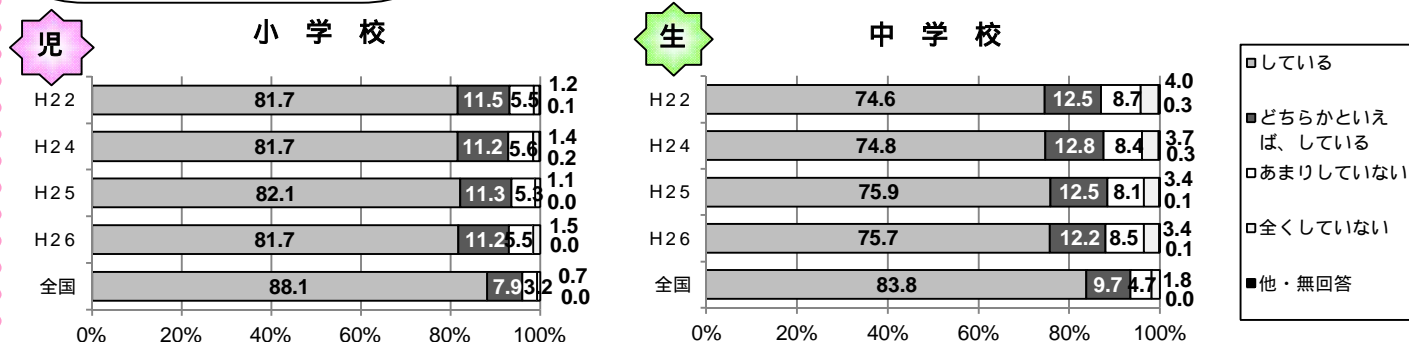
■ 4時間以上
■ 3時間以上、4時間より少ない
■ 2時間以上、3時間より少ない
■ 1時間以上、2時間より少ない
■ 30分以上、1時間より少ない
□ 30分未満



- 全国と比較して -

- ・「朝食を毎日食べている」について肯定的に回答している児童生徒の割合は、全国と比較して低い傾向にあります
- ・「携帯電話やスマートフォンの使用時間」や「テレビゲームをする時間」が長い傾向にあります

朝食を毎日食べている



学校で

学校全体で、基本的生活習慣の形成に係る取組を進めます。(あいさつ、時間を守る等)
 学校・家庭で身に付けるべき基本的生活習慣を共有します。(懇談会や学校便り等)
 朝食やバランスに配慮した食事の大切さについて指導し、食育の推進を図ります。

家庭で

毎日の家庭での生活を子どもと共に振り返りましょう。
 携帯電話での通話やメール、インターネットの使用やゲームをする時間等、家庭で相談し、ルールを作りましょう。
 毎日朝食をとり、元気な一日のスタートをきりましょう。
 早寝早起きをし、規則正しい生活を心がけましょう。
 家族で食事をとりながら、団らんを楽しみましょう。
 地域の行事等に、積極的に参加しましょう。



効果があった取組例

家庭での学びを進めるための手引き(「学習時間のめやす」「早寝早起き」「朝食をとる」等の基本的生活習慣の定着を目的としたもの)を作成し、保護者に配布しています。
 全校一斉「朝のラジオ体操」を行い、気持ちよく学習のスタートがきれるようにしています。
 中学校で基本的生活習慣のリズムを身につけるよう、小学校の連絡ノートのように「生活ノート」を作成し、学校や家庭での生活を振り返り、規則正しい生活になるよう取り組んでいます。
 食育に関する通信を子どもや保護者に配布し、健康や食事についての意識の向上を図っています。

大阪市の取組

「幼保小の連携」(P.40)
 「学校キャラバン隊」(P.42)

- 大阪市の結果から -

児

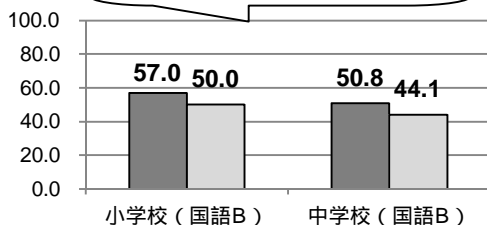
生

次の項目に肯定的に回答している児童生徒の方が、全ての教科で正答率が高い傾向にあります

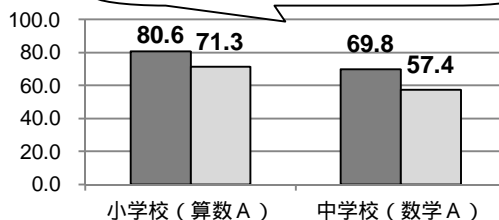
■ 肯定的回答をした児童生徒の正答率

□ 否定的回答をした児童生徒の正答率

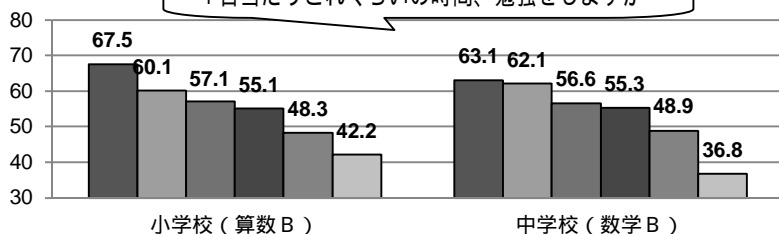
家で授業の復習をしていますか



自分で計画を立てて勉強していますか



1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



■ 3時間以上

■ 2時間以上 3時間より少ない

■ 1時間以上 2時間より少ない

■ 30分以上 1時間より少ない

■ 30分より少ない

□ 全くしない



- 全国と比較して -



「授業の復習」「計画を立てて勉強」について、肯定的に回答している児童生徒の割合が低い傾向にあり、「1日の勉強時間」も短い状況です

■ している

■ どちらかといえば、している

■ あまりしていない

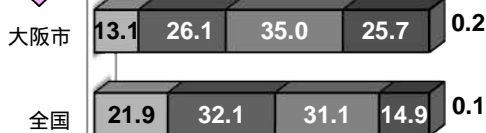
■ 全くしていない

■ 他、無解答

復習している

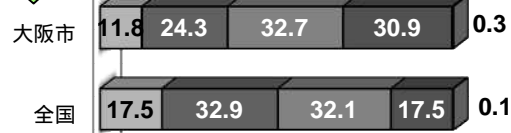
児

小学校



生

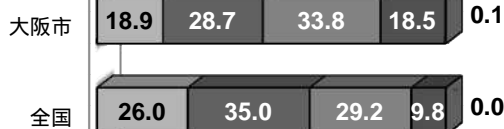
中学校



計画を立てて勉強している

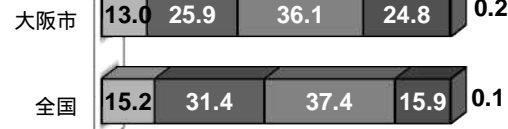
児

小学校



生

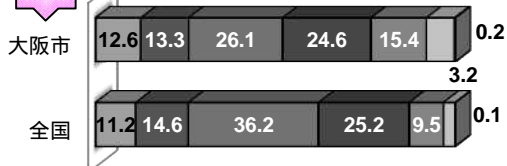
中学校



1日の勉強時間

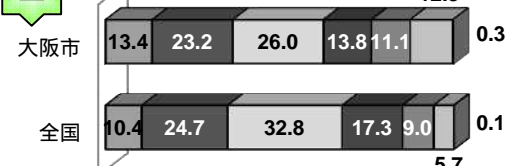
児

小学校



生

中学校



学校で

与えられた課題や宿題は、やり遂げるように指導します。

家庭学習の取り組み方について、指導していきます。

中学校では、各教科等の担当が共通理解を図りながら宿題の分量や出し方を工夫します。

懇談会等において、家庭学習（宿題）について保護者の方々と意見交流をします。



家庭で

宿題を確実に仕上げるように、見守りましょう。

内容や時間については、自分で計画を立てて取り組めるように話し合いましょう。また、うまく進まない時には、声かけをし、励ましましょう。

宿題以外にも、復習や読書等、自分で考えた課題に取り組めるように、声かけをしましょう。



効果があった取組例

家庭学習の取り組み方を工夫しています。

- ・ 漢字では・・・筆順・熟語・パズルやクイズ等いろいろなパターンで取り組ませています。
- ・ 音読では・・・毎日のめあてを決め、目的をもって読ませています。

「めざせ 漢字博士!」「計算名人!」

自分の到達度に合わせた学習プリントに取り組ませ、家庭学習への意欲を高めています。

教室の黒板横のホワイトボードに各教科の宿題内容を記入し、教員・生徒がともに共有できるようにしています。また、同じ分量の宿題を出すよう、教科担当が互いに調整しています。

毎週火曜日の放課後に、学校独自で宿題等を行う補充学習の時間を設定しています。その結果、宿題を忘れてくる児童の数が減り、学習への意欲が高まってきています。



大阪市の取組

「学習教材データ配信」(P.37)

「放課後ステップアップ事業」(P.37)

「学校元気アップ地域本部事業」(P.38)

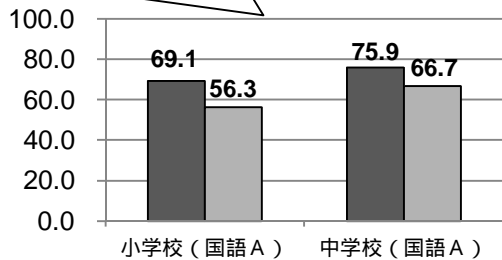
自尊心：self-esteem の訳語で「やればできる」
という自信や自分を大切に思う気持ちのこと
規範意識：規則を守ろうとする意識

児 児童質問紙 生 生徒質問紙 学 学校質問紙

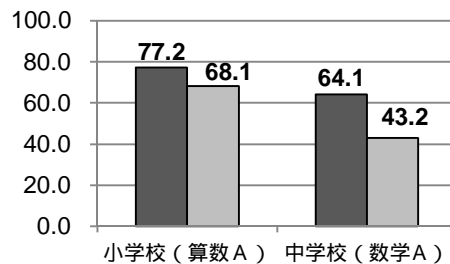
- 大阪市の結果から -

児 生 次の項目に肯定的に回答している児童生徒の方が、全ての教科で正答率が高い傾向にあります

ものごとを最後までやり遂げて、
うれしかったことがありますか



学校のきまり・規則を守っていますか



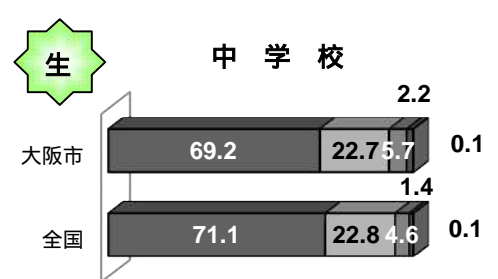
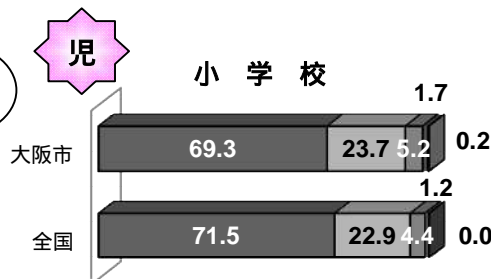
■ 肯定的回答をした児童生徒の正答率
□ 否定的回答をした児童生徒の正答率

- 全国と比較して -

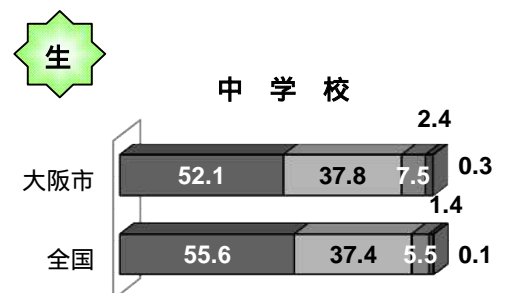
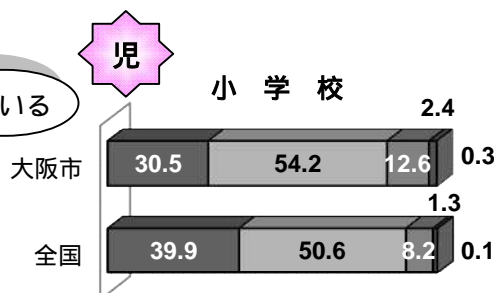
・「ものごとを最後までやり遂げることに喜びを感じている」について肯定的な回答をしている児童生徒は全国に比べて若干低いものの、9割を超えています
・「学校のきまり・規則を守っている」「先生はあなたのよいところを認めてくれている」について、肯定的に回答している児童生徒の割合は低い傾向にあります

■ 当てはまる
□ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない
■ 当てはまらない
■ 他・無回答

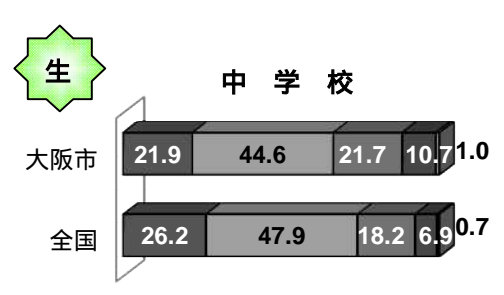
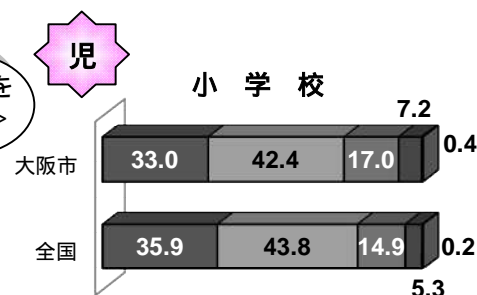
ものごとを最後までやり遂げて、
うれしかったことがある



学校のきまり・規則を守っている



先生は、あなたのよいところを
認めてくれている <新規項目>



- 全国と比較して -

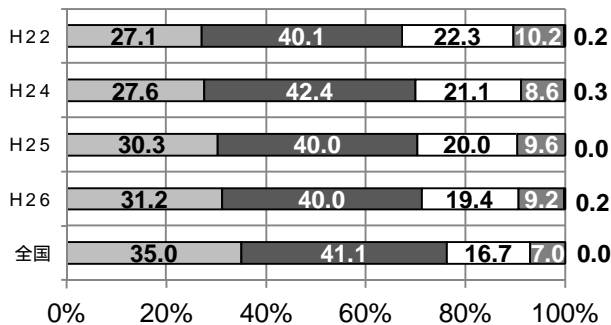
肯定的に回答している児童生徒の割合は依然低い傾向にあります

児 生

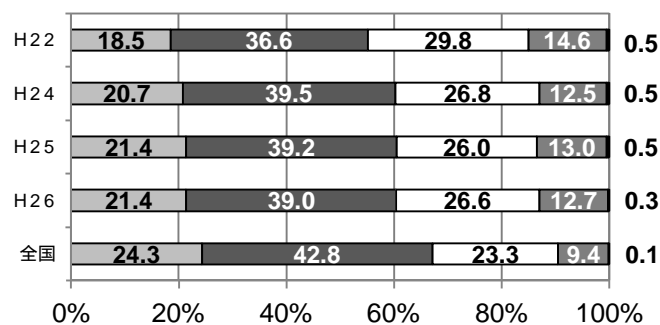
自分には、よいところがあると思う

- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない
- 他、無回答

小 学 校



中 学 校



学校で

学びの基盤となる学習規律を身につけさせます。
 子どものがんばりを認め、一人一人のよさを伸ばします。
 よりよい人間関係を築くため、規範意識を高めます。
 子どもとの対話に心がけ、信頼関係を深めます。

家庭で

子どもの取組を粘り強く見守り、励ましましょう。
 子どもが自信を持っていることを認め、さらに伸びていくことができるよう、温かい言葉をかけましょう。
 夕食や家事の手伝いを通して、会話を楽しみ、ほめてあげましょう。
 大人が自分自身の経験を語ったり、子どもの夢や希望に耳を傾けたりして、積極的に子どもと対話しましょう。
 家庭でのルールを子どもと話し合って決めましょう。

効果があった取組例

学校生活や学習活動のルールをスローガンに掲げ、生徒の学習への意識向上をめざして、学校全体で取り組んでいます。
 生徒会が中心となり、集会や行事を生徒自身で運営し、地域の清掃活動や校区小学校の児童会との交流を行っています。
 地域の店舗の協力を得て、児童が新しく販売する商品のためのリサーチ、企画・開発・その実践報告を行う等、キャリア教育を充実しています。

大阪市の取組

「放課後ステップアップ事業」(P.37)
 「学校元気アップ地域本部事業」(P.38)
 「幼保小の連携」(P.40)
 「学校キャラバン隊」(P.42)

- 大阪市の結果から -

児

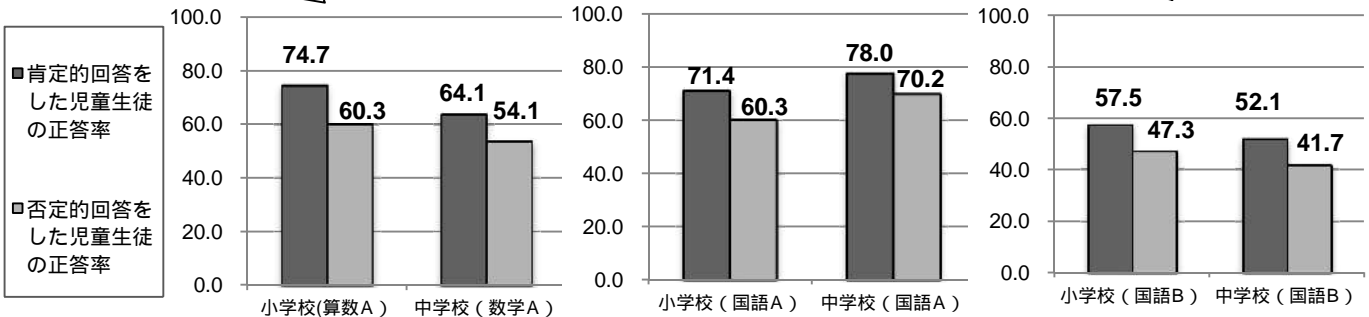
生

次の項目に肯定的に回答している児童生徒の方が、全ての教科で正答率が高い傾向にあります

家の人は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか

家の人と学校の出来事について話をしますか

地域や社会で起こっている出来事に興味がありますか



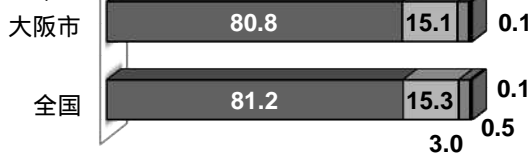
- 全国と比較して -

「家の人の学校行事への参加」「学校の出来事の会話」「地域や社会への関心」について、肯定的に回答している児童生徒の割合が低い傾向にあります

家の人の学校行事への参加

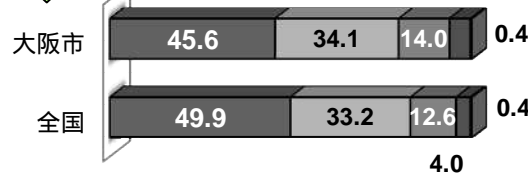
児

小学校



生

中学校

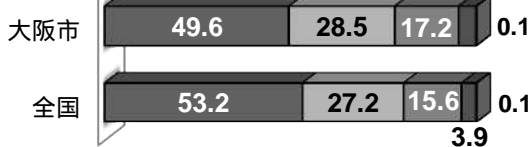


■よく来る
■ときどき来る
■あまり来ない
■全く来ない
■他, 無回答

学校の出来事の会話

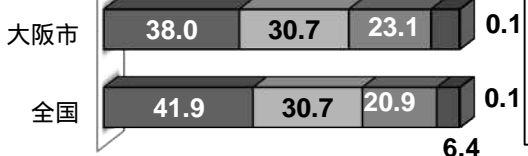
児

小学校



生

中学校

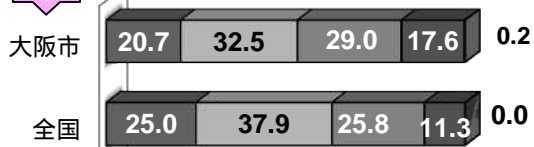


■している
■どちらかといえば、している
■あまりしていない
■全くしていない
■他, 無回答

地域や社会への関心

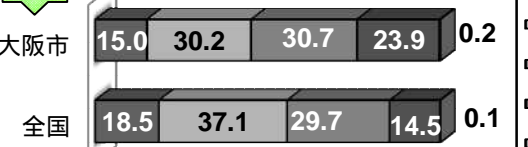
児

小学校



生

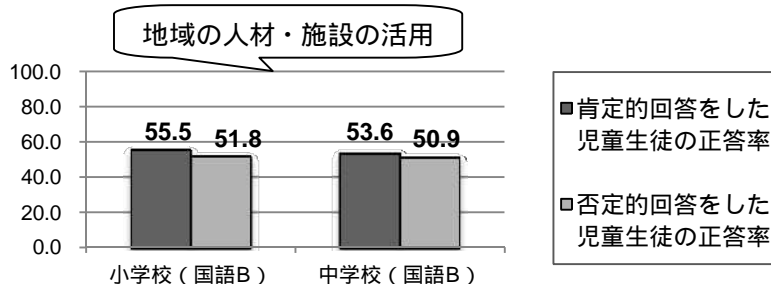
中学校



■当てはまる
■どちらかといえば、当てはまる
■あまり当てはまらない
■全く当てはまらない
■他, 無回答

学

全国のデータでも、「地域の人材・施設の活用」について肯定的に回答している学校の方が、教科の正答率が高い傾向にあるという結果が出ています



学校で

学校教育活動の中で、地域との連携を図る取組を進めます。

・昔遊び、野菜・米作り、昔のくらし、地域清掃、職場体験、福祉ボランティア、安全マップづくり等
「子どもの生きる力をはぐくむ家庭のちから」等のテーマで、家庭での過ごし方について懇談会等で話題にし、保護者の方々と共に考えます。

地域での行事を紹介したり、一緒に参加したりします。

学力向上、体力向上、健全育成等を柱に、就学前教育、小中一貫した教育の充実に取り組みます。

家庭で

できるだけ家族と一緒に過ごす時間を作りましょう。

子どもの話に耳を傾けましょう。学校でのがんばりをほめましょう。

家庭や地域でのあいさつを大切にしましょう。

あいさつは、コミュニケーションの第一歩です。

ニュースや地域の出来事なども話題にして、地域・社会に関する興味・関心を育てましょう。

地域の行事に積極的に参加しましょう。

・お祭り、清掃活動、もちつき大会等

認める・ほめる・
感謝する・喜ぶ



効果があった取組例

学校・家庭・地域が協力して、地域学習資料「わたしたちの町」を作成し、教育活動の中で活用しています。また、スクールキャラクターが、ホームページや学校のいろいろな場面で登場し、子どもたちや地域の方々から親しまれています。

キャリア教育として職場体験や職業講話を行い、望ましい勤労観・職業観を育てています。

学校元気アップの取組の中で、夏休みや放課後に、空き教室や学校図書館等の学習スペースを確保し、学習意欲の向上につなげています。

学校のホームページを各学年で担当し、子どもたちの様子や会話の糸口となるメッセージを配信していくことで、家庭や地域とのつながりを深めています。

毎日10名以上の地域のボランティアが来校し、給食時や放課後の自主学習会の手伝い、校内を巡回しての生徒への声かけ等を行っています。

大阪市の取組

「学校元気アップ地域本部事業」(P.38)「小中一貫した教育」(P.39)
「幼保小の連携」(P.40)「学校図書館活性化事業」(P.40)
「学校キャラバン隊」(P.42)

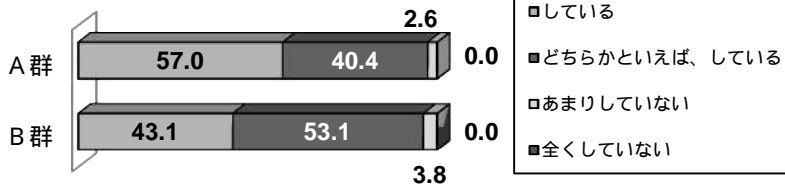
- 国の調査結果から -

学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか<新規項目>

全国の学校を対象に、全ての教科で平均正答率が5ポイント以上全国平均を上回る学校（A群）と5ポイント以上全国平均を下回る学校（B群）を比較すると、A群の方が、「学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的によく取り組んでいる」と回答している割合が高いです

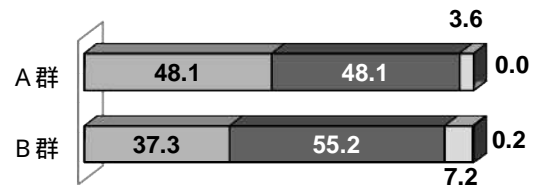
学

小学校



学

中学校



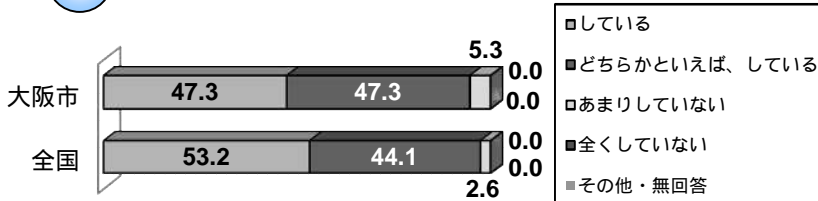
- 大阪市の結果から -

学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか<新規項目>

肯定的な回答の割合は全国と比べてあまり差はありませんが、「組織的に取り組んでいる」と回答している割合は、小学校・中学校ともに、全国より低い傾向にあります

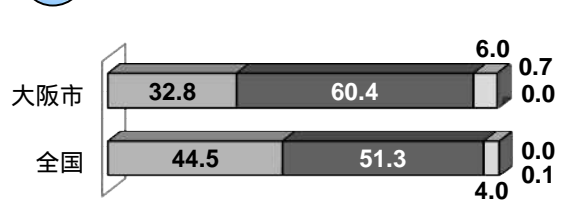
学

小学校



学

中学校



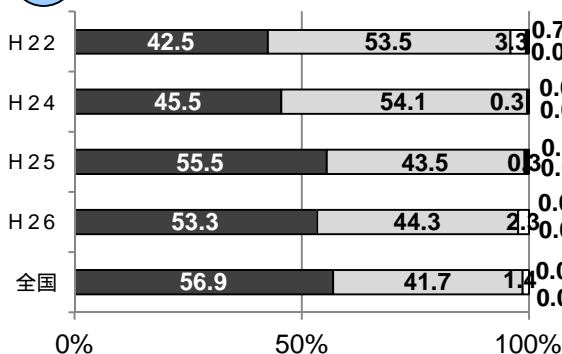
- 大阪市の結果から -

学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっている

「取り組んでいる」と回答した学校の割合は、平成25年度までは概ね増加傾向にありましたが、平成26年度は小・中学校ともに低くなっています

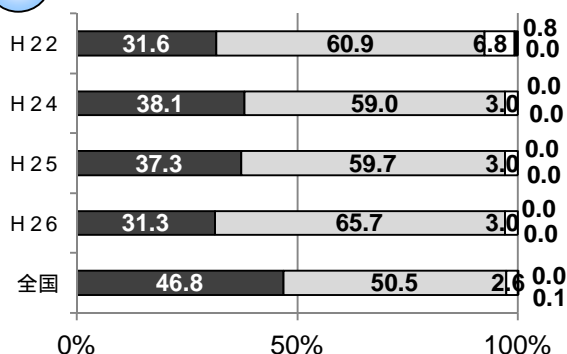
学

小学校



学

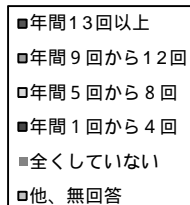
中学校



よくしている
どちらかといえば、している
あまりしていない
全くしていない
他、無回答

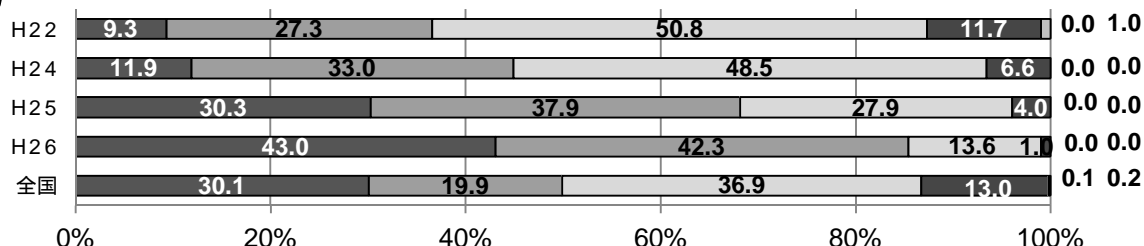
「授業研究を伴う校内研修実施回数」は、全国を上回っています

授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか



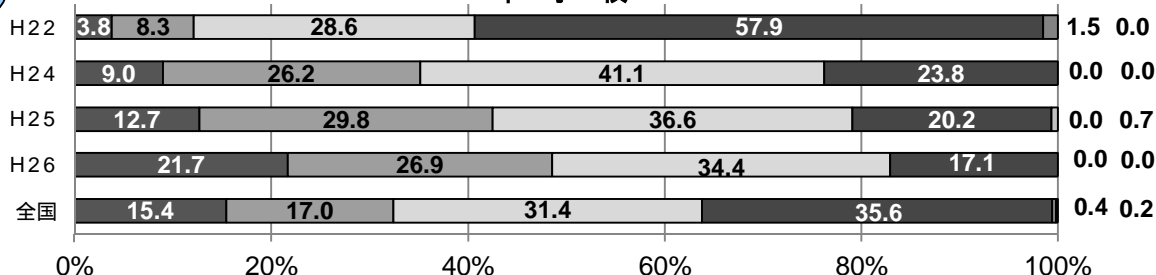
学

小 学 校



学

中 学 校



学校で

学校の教育目標の達成をめざし、学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、組織的に取り組みます。

PDCAサイクルに基づいた学校改善を進め、学力向上に向けた具体的な取組を進めていきます。

PDCAサイクルに基づく「学力向上検証改善サイクル」

「全国学力・学習状況調査」等の結果分析を基に、これまでの各学校の取組の成果と課題を明らかにしたうえで、様々な教育活動を見直し、学力向上に向けた取組を進めていきます。



効果があった取組例

校内の研究部やメンターを中心に、学力向上、授業力向上に向けた校内研修を積極的に行っています。

メンター：より経験を積んだ教員

若手教員を中心とした自発的な研究グループが、教材についての指導方法や新しいアイデアを出したことで、授業改善への意識が学校全体に広がり、より校内研究が活性化しています。

学校長のリーダーシップのもと、学校独自の「授業力向上アドバイスシート」を作成し、授業研究会の際に全員で活用しながら、若手育成に取り組んでいます。

指導主事や教育センターの教育指導員等による指導助言に加え、大学教授や外部講師の積極的な活用を行い、校内研修の充実を図っています。

大阪市の取組

「学び続ける教員サポート事業」(P.42)

学力向上に向けた大阪市の取組

本市では、学力向上をはじめとする、「めざすべき目標像」に向けて大阪市の教育を進めていくため、「大阪市教育振興基本計画」を踏まえ、課題や成果を検証しながら取り組んでいます。
ここでは、その代表的な取組を紹介します。

- 》》 言語力や論理的思考能力の育成
- 》》 習熟度別少人数授業の実施
- 》》 ICTを活用した教育の推進
- 》》 学習教材データ配信
- 》》 放課後ステップアップ事業
- 》》 学校元気アップ地域本部事業
- 》》 小中一貫した教育
- 》》 幼稚園・保育所・小学校の連携
- 》》 学校図書館活性化事業
- 》》 英語イノベーション事業
- 》》 理科教育の充実
- 》》 学び続ける教員サポート事業
- 》》 学校キャラバン隊

「めざすべき目標像」

全ての子どもたちが学力を身に付けながら健やかに成長し、自立した個人として自己を確立し、他者とともに次代の社会を担うようになることをめざします。

そのために、社会が多様化し激しく変化する中で、国際化の進展や未曾有の災害の発生等を踏まえ、子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力を備えるようにします。

「大阪市教育振興基本計画」

本市の教育改革の基本方針です。

詳しくは、大阪市のホームページ（下記 URL）をご覧ください。

<http://www.city.osaka.lg.jp/kyoiku/page/0000209049.html>

言語力や論理的思考能力の育成

(カリキュラム改革・グローバル化改革)

全ての教科・道徳等において「話す」「聞く」「書く」「読む」といった言語を通した学習活動を重視し、小中学校9年間を見通した言語活動の充実を図ることにより言語力や論理的思考能力を育みます

授業では

メモする、自分の考えを書く、聞いたことや読み取ったことを短くまとめて書く等、「書く」活動に工夫して取り組みます。

辞書の活用等により、語彙（^{こい}言葉の種類や数）を増やす工夫をします。
ペア学習、グループ活動等、積極的に話し合い活動を取り入れます。

「言語力等の育成を図る授業づくり研修会」を開催

指導法の工夫、授業改善を推進することで、児童生徒の言語力や論理的思考能力の育成を図ります。

- ・ モデル校 6 校にて開催
- ・ 参加型討議会、大学等からの講師による指導講評



公開授業・研究発表会を開催

モデル校における取組の成果や課題等を共有し、各校における言語活動充実の取組改善に活かします。

- ・ モデル校 6 校にて開催
- ・ 研究協議、取組成果の発表、大学等からの講師による指導講評、講演会



(担当) 指導部教育活動支援担当 学力向上グループ TEL6208 - 9039

習熟度別少人数授業の実施

(カリキュラム改革・グローバル化改革)

- ・ 児童生徒の学習内容の理解度や、技能の習得の程度等により、個に応じて編成された少人数グループでの習熟度別少人数授業に取り組んでいます
- ・ 大阪市では小学校3～6年生の国語・算数と中学校全学年の国語・数学・英語の授業で実施しています

「習熟度別少人数授業」により、児童生徒のつまづきやその原因をより詳細に把握し、個に応じたきめ細やかな指導に努めています。その他にも、複数の教員が協力して、1学級の授業を行うチームティーチング(T.T)や、班ごとに分かれて行うグループ学習等、学校の課題や教科の特性に応じ、様々な指導方法による授業も実施しています。



各小中学校で、教員 1 名を「習熟度別少人数授業コーディネーター」として位置づけています。コーディネーターは、児童生徒の実態把握、校内研修の推進、学習効果の検証等を行う役割を担っています。

児童生徒に基礎的・基本的な学習内容を確実に身につけさせるとともに、「できる喜び・わかる喜び」を実感させ、児童生徒の確かな学力の向上に努めています。



習熟度別少人数授業コーディネーター研修会の様子

(担当) 指導部初等教育・中学校教育担当 TEL6208 - 9176・9199

ICTを活用した教育の推進

(カリキュラム改革・グローバル化改革)

モデル校では、タブレット端末等ICT機器を効果的に活用し、「自分で考え判断する力」「自分の考えを豊かに伝える力」「最新の情報機器を使いこなす力」を身に付け、変化する社会で自律できる子どもの育成をめざし、「新しい学び」の実現に向けた取組を進めています

児童生徒が教え合い学び合う協働的な学びを実現します。

思考力、判断力、表現力につながる言語活動の充実を図ります。

児童生徒一人一人の能力や特性に応じた指導の充実を図ります。

小中学校の教員を対象に、ICT機器を効果的に活用した授業づくりや指導方法等について研修を行い、教員の情報活用指導力の向上に取り組みます。

モデル校では、最新のICT機器を効果的に活用し、
「新しい学び」が始まっています

学習活動の中で教え合う場面が増えます。



グループで話し合い学び合う場面が増えます。



今年度中には、全市小中学校にタブレット端末 40 台を整備し、ICT機器を活用した授業実践を推進します。

(担当) 大阪市教育センター 指導研究グループ TEL6572 - 0667

学習教材データ配信

(カリキュラム改革・グローバル化改革)

「学力向上を図る学習支援事業」の一環として、平成 26 年 10 月より、全ての小学校・中学校・特別支援学校に、学習教材データの配信を行っています

小学校（特別支援学校小学部）には国語・算数・社会・理科

中学校（特別支援学校中学部）には国語・数学・社会・理科・英語と、小学校の国語・算数を配信しています。

配信される学習教材データは、基礎的・基本的な問題はもとより、本市の課題である記述問題や活用問題（応用問題）が充実しており、繰り返しの練習や、個に応じた学習等に活用できます。

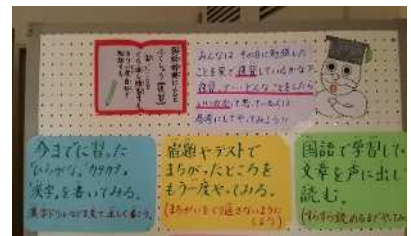
各学校では、それぞれの学習の程度に応じてあらゆる場面で活用方法を工夫し、学力の向上をめざします。

（担当） 指導部教育活動支援担当 学力向上グループ TEL6208 - 9039

放課後ステップアップ事業

(カリキュラム改革・グローバル化改革)

平成 21 年度より、小学校全校において、子どもたちの自主的な学習を支援し、わかる喜びや勉強の楽しさを味わわせ、児童の学習意欲の向上や自主学習習慣の定着につなげることを目的に、放課後の学習支援を行う「放課後ステップアップ事業」を進めています



子どもたちは、教員や指導員の声かけのもと、宿題を中心に自主学習に取り組んでいます。今後は、宿題だけでなく復習等にも取り組めるよう、子どもの学習意欲を引き出し、自主学習習慣のさらなる定着を図ってまいります。



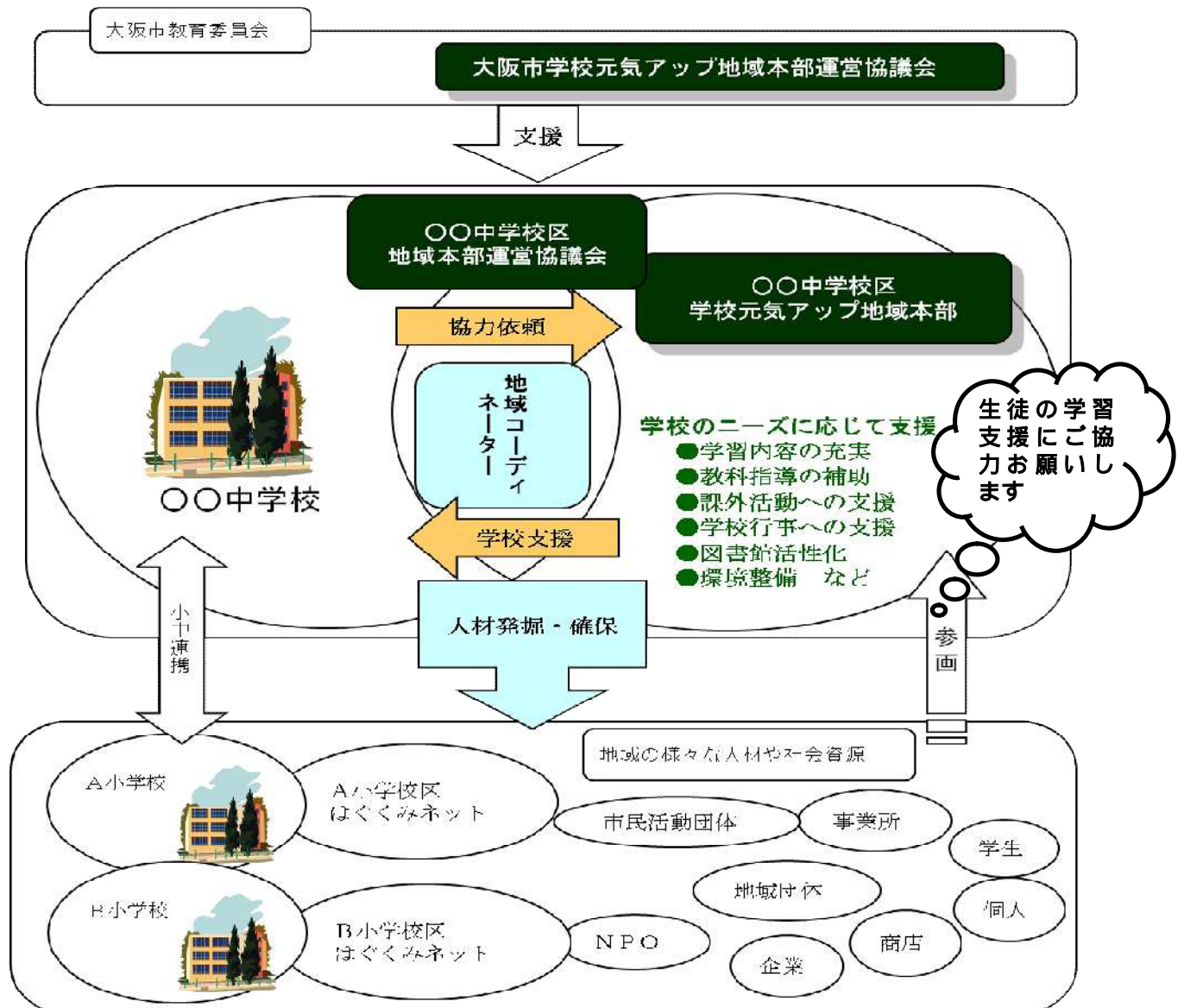
（担当） 指導部教育活動支援担当 学力向上グループ TEL6208 - 9046

学校元気アップ地域本部事業

(ガバナンス改革・学校サポート改革)

- ・ 保護者や地域の方々による学校教育活動のサポートを一層充実させるために、学校・家庭・地域が連携した教育コミュニティづくりを進めています
- ・ 中学校区において、地域の方々の協力を得ながら、地域社会全体で子どもを育てる仕組みとして「学校元気アップ地域本部」を設置し、生徒の生活習慣の確立や学力向上等の課題解消に向け、各学校のニーズに応じた取組を行っています

事業イメージ



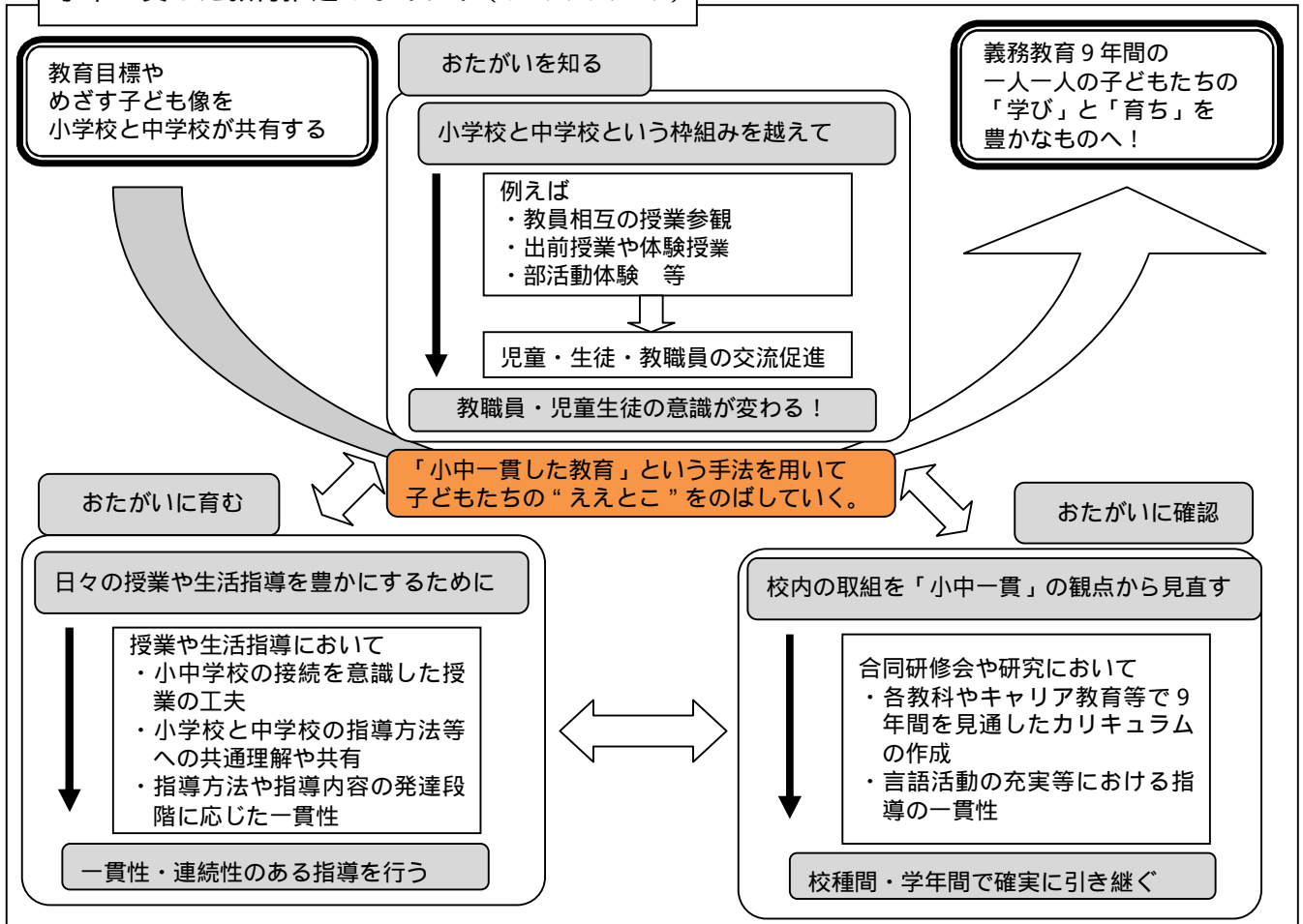
(担当) 指導部中学校教育担当 学校元気アップグループ TEL6208 - 9171

小中一貫した教育

(カリキュラム改革・グローバル化改革)

全ての小中学校では、平成 22 年 3 月に策定した「大阪市小中連携推進プラン」に則り、学習指導要領に準拠した教育課程を 9 年間見通して編成する等、学力向上、体力向上、健全育成等を柱に小中一貫した教育に取り組んでいます

小中一貫した教育推進のポイント（リーフレットより）



< 施設一体型小中一貫校を設置しています >

平成 24 年 4 月開校	やたなか小中一貫校	: 矢田南中学校区 (矢田小学校、矢田南中学校)
平成 26 年 4 月開校	小中一貫校 むくのき学園	: 中島中学校区 (啓発小学校、中島中学校)
平成 27 年 4 月開校予定	いまみや小中一貫校	: 今宮中学校区 (新今宮小学校、今宮中学校)
	平成 27 年 4 月	萩之茶屋小学校、今宮小学校、弘治小学校を統合

施設一体型小中一貫校で推進されている小中一貫した教育の成果を、全市の小中学校へ広めます

(担当) 指導部中学校教育担当 小中一貫教育グループ TEL6208 - 9171

幼稚園・保育所・小学校の連携

(カリキュラム改革・グローバル化改革)

就学前教育では、規範意識や基本的な生活習慣、言語及び数を含む概念、運動意欲や体を動かす力等「知・徳・体」をバランスよく育ていけるよう取り組んでいます

平成 25 年度には、市立幼稚園、保育所、小学校、私立幼稚園の代表者、教育委員会事務局、こども青少年局による大阪市幼保合同研究協議会を立ち上げ、「就学前教育カリキュラム（案）」を編成しました。

平成 26 年度には、大阪市幼保合同研究協議会を立ち上げるとともに、モデル幼稚園やモデル保育所を中心に、「就学前教育カリキュラム（案）」の試行・検証を行い、「就学前教育カリキュラム」を策定する予定です。その中には、「小学校教育への接続」として、就学までに育みたい力や幼保小交流の具体的な取組についても示しています。



(担当) 指導部初等教育担当 幼稚園教育グループ TEL6208 - 8173

学校図書館活性化事業

(カリキュラム改革・グローバル化改革)

- ・ 学校図書館を子どもたちにより親しみやすく、使いやすい場にするために、学校・地域・市立図書館が連携して、「学校図書館活性化事業」を実施しています
- ・ 全ての小学校で、子どもたちの読書環境を充実させるために、ボランティアの方々の協力を得て、さまざまな取組を進めています

【活動例】

図書館の開館時間の拡大

読み聞かせやお話し会

ディスプレイの工夫

図書の整理

本の修理



(担当) 指導部教育活動支援担当 学力向上グループ TEL6208 - 9046

英語イノベーション事業

(カリキュラム改革・グローバル化改革)

自分の考えや意見を英語で伝えることができるコミュニケーション能力を育成するため、ネイティブ・スピーカーを配置し、英語教育の強化を図る取組を行っています

英語教育重点校での取組を進めています

- ・ 英語教育重点校（中学校 8 校、小学校 19 校）で、小学校 1 年生から英語教育を始めています。フォニックス（文字付き音声指導）等を取り入れた、音声を重視した指導を実施しています。

児童生徒が、生きた英語に触れる機会を増やします

- ・ ネイティブ・スピーカーを各中学校区に配置しています。
小学生、中学生が集中的に英語を使うイベント「イングリッシュ・デイ」を毎年秋に実施しています。



「イングリッシュ・デイ」の活動の様子

（担当）指導部教育活動支援担当 英語教育グループ TEL6208 - 9039

理科教育の充実

(カリキュラム改革・グローバル化改革)

小学校第 5・6 学年を対象に、理科補助員を配置し、理科の授業における観察・実験を充実させるとともに、企業や団体の技術者と連携した、理科の特別授業を実施しています

系統的な理科の教育内容を検討し、平成 26 年度からはモデル校を設置し、小学校 1 年生から 6 年間を見通した理科教育の充実に係る実践研究を行っています。



（担当）指導部教育活動支援担当 学力向上グループ TEL6208 - 9039

学び続ける教員サポート事業

(カリキュラム改革・グローバル化改革)

小学校、中学校の全ての教員が、年間 1 回以上の授業研究を伴う校内研修を実施することにより、若手、中堅、ベテラン教員が共に学び合うことをめざします

教育指導員が、全ての小中学校を 2 ～ 5 回訪問し、校長先生、教頭先生、校内研修主担者、メンター（より経験を積んだ教員）および若手教員グループに対し、校内研修の計画・立案・実施への支援や授業後の研究協議等での指導助言を行います。

子どもの主体的な学びを重視した授業の実現に向け、全ての教員が共に学び合い、学び続けることで、学校のさらなる活性化をめざします。



(担当) 大阪市教育センター 基本研修グループ TEL6572 - 0657

学校キャラバン隊

(学校サポート改革)

平成 20 年度より、幼稚園・小学校を中心に教育委員会の指導主事チームを派遣し、「子どもの生きる力をはぐくむ家庭のちから」をテーマに、保護者や地域住民、教職員との懇談会を開催しています

これまでに 100 を超える学校園等で懇談会を実施しました。

子どもの生きる力の育成には、基本的生活習慣（「早寝、早起き、朝ごはん」等）の確立、学習環境の整備、自尊感情の育成等が大切であることを保護者に啓発しています。今年度は、携帯電話の使い方や問題点についても話題に取り上げています。

今後もキャラバン隊を派遣し、啓発活動に取り組みます。

子どもの生きる力をはぐくむ

家庭のちから



学校キャラバン隊

【参加者の声】

- ・学力の向上には学校・家庭・地域のつながりが大切だと思った。
- ・睡眠や朝ごはんの大切さを知り、学力向上には、基本的生活習慣の定着が大切だと感じた。
- ・就学に向けて、保護者としての心構えができた。

(担当) 指導部教育活動支援担当 人権・国際教育グループ TEL6208 - 8128